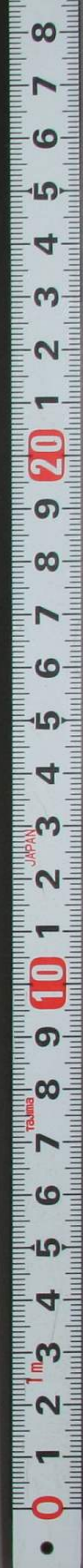


唐土名勝圖會 卷之四

ル 5  
3457  
4



冊 5  
號 3457  
卷 4

吉



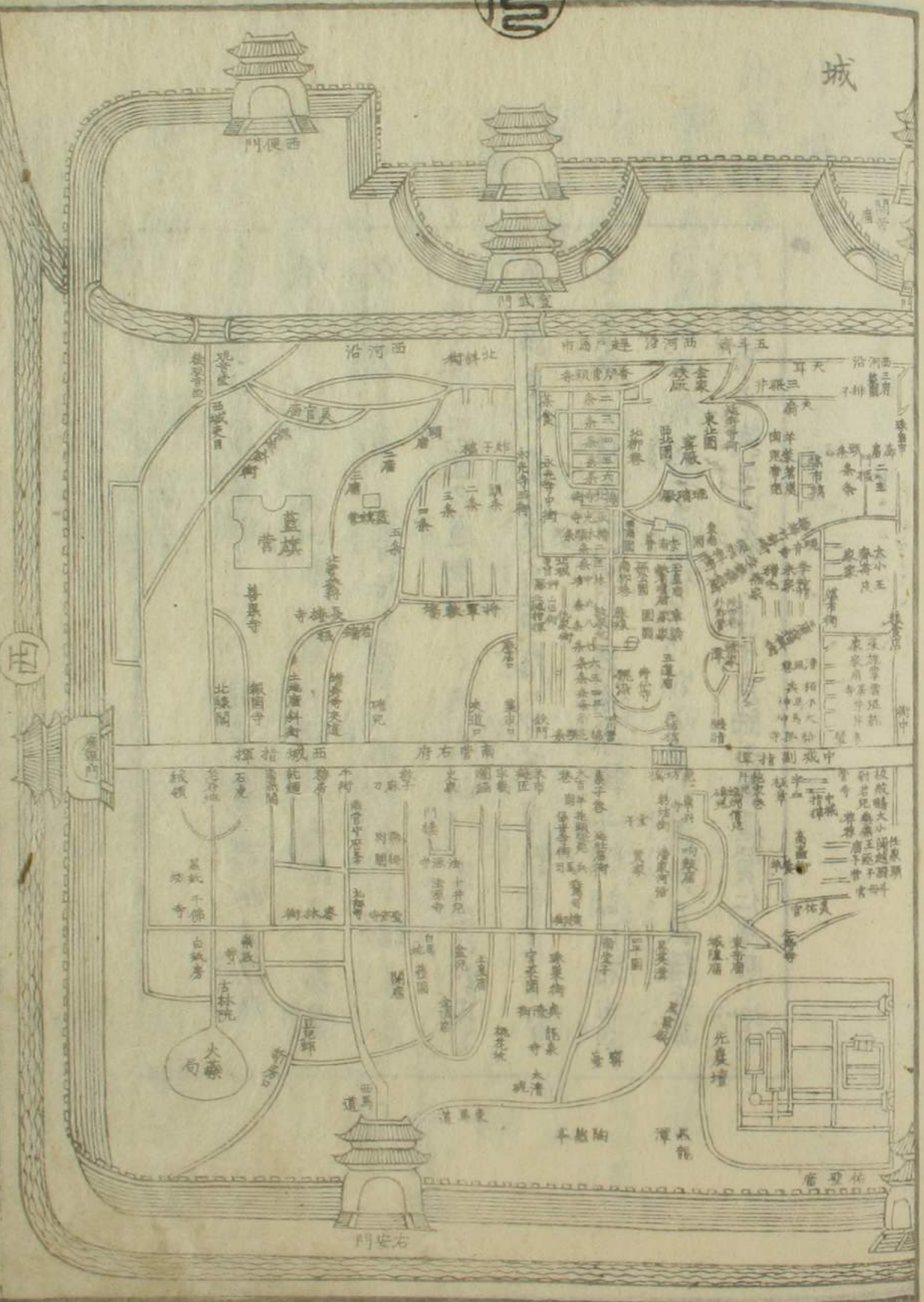
城

喜世名券圖會

京師

外城

卷之四



城

西便門

西武宣門

沿河西

藍旗營

探拉城而

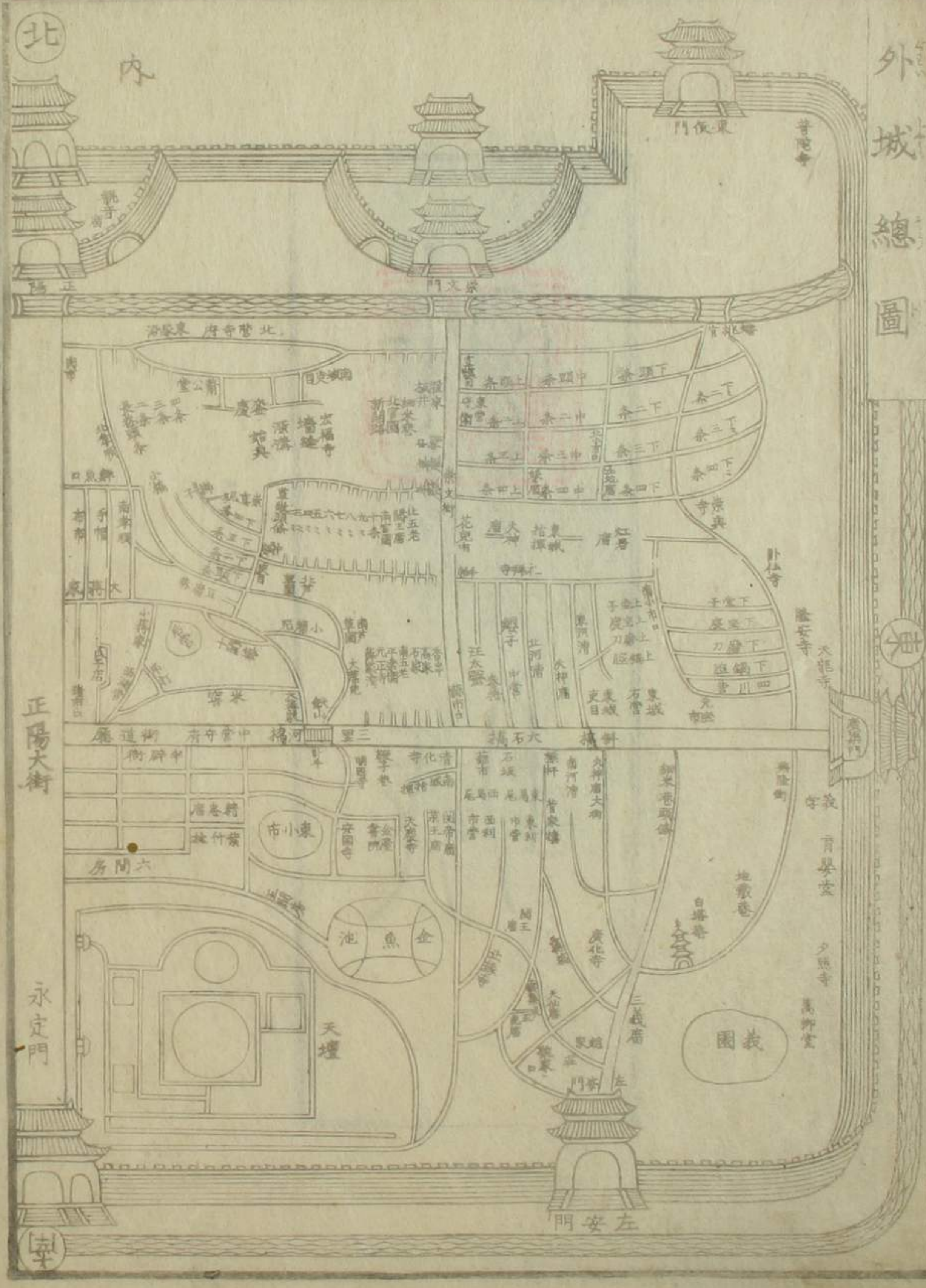
府右營南

探拉城而

中城副探拉

大藥局

右安門



外城總圖

北內

東便門

東武宣門

沿河東

正陽大街

永定門

左安門

冊

冊

圖說

凡商民の屋皇城より内城を多く内城より外城の増より山西河南山東江南浙江等の州郡より高賈賤貨集り固く此産物を鬻ぎ繁盛なる多難言盡正陽大街の正面の通街より肉市胡同の羊豕の割肉と高の鮮菜の菜店之凡市店の地菜市糧食店を賣賣多し珠玉市胡同の器用家街手帽胡同布市胡同の綿布帽踏は手履等の物と高し其外長椿寺胡同廟市大街等の名は日本京師六角通賢仁寺町と如き

唐二名勝圖會卷之四目錄

外城

外城之東

正陽外門

觀音大士廟

關帝廟

查樓

蕭公堂

靈佑宮

關帝廟

中城史同署

吳越王錢穆

三里河

關帝廟

中宮亦南二身備署

火水廟

東城史同署

卧佛寺

廣渠門

義學

拈花禪寺

法藏寺

五虎廟

華嚴寺

南城正指揮署

明因寺

龍王堂

東月牆

北宮内中東守備署

南城史同署

崇真觀

關帝廟

鐵山寺

三官廟

崇文門稅務署

中宮參將署

都竈君廟

太平宮

爐聖菴

隆安寺

育嬰堂

夕照寺

永安門

右陽宮

關帝廟

清化寺

姚彬關王廟

天慶寺

永濟橋

南宮東南一守備署

祈年殿

外城之西

西月牆

大學士朱文安軾邸

鐵老鶴廟

北城正指揮署

洗象

大慈仁寺

西城文月署

白紙坊

聖安寺

玉皇廟

金臺書院

精忠廟

永定門

萬壽園帝廟

大學士李文貞邸

琉璃廠

松筠禪林

長椿寺

廣德寺

西便門

古林院

寄園

水月禪院

魚藻池

天壇

延壽寺

菽子園

永光寺

三忠祠

都土地廟

若果寺

朱竹地寓居

火藥局

惻忠寺

怡園

東小市

園丘

擢頭巷

梁家園

仁川營

順城門

懺園

帝義寺

廣寧門

右安門

萬壽西宮

大學士陳文簡邸

圓帝廟

慈寧殿

星龍潭

斗姥宮

苑園總圖

臥虎橋

方澤壇

西黃寺

望京村墩臺

東嶽廟

北營外西一守備署

黑松林

三忠祠

延壽寺

張相公廟

審臺

都城隍廟

先農壇

郊祠

多寶佛塔禪院

薊門烟樹

華藏寺

北營外東一守備署

朝日壇

天妃宮

謠羅臺

薊微墓

圓覺寺

元帝廟

慈恩菴

東嶽廟

親耕

松林園

北極寺

北營游擊署

護國天仙廟

明令忠潔公墓

東城副指揮署

淨住寺

大通橋

中營外東南守備署

宏昌寺

晉陽巷

陶然亭

仁壽寺

觀音寺

土城園

功德坊

東黃寺

滿井

碧霞元君廟

中營外東守備署

隆壽寺

藍靛廠

泮水殿

隆禧寺

皇太后新韓信	金臺	南苑	更衣殿
舊衙門行宮	涼鷲臺	大園	雙柳樹
南紗宮	新衙門	因河行宮	碧霞元君廟
元靈宮	永慕寺	德壽寺	開帝廟
永祐廟	寧祐廟	龍王廟	南路同知署
草橋	百泉溪	豐臺	南宮外南二守備署
廣恩寺	九蓮慈蔭寺	祖氏園	奉氏園
廣寧門	天寧寺	柳巷村	濕水
盧溝河	廣溝橋	金園寺	惠濟寺
大慈觀音寺	普濟堂	福生寺	西路同知署
元劉秉忠墓	白雲觀	約魚臺	玉淵潭
崇壽寺	開帝廟	三義廟	右乙集仙觀
文月壇	寶塔寺	慈恩院	靜樂堂
慈壽寺	摩訶巷	作虎橋	西城副指揮署

慈慧寺	西城寺	元福寺	顯應寺
雙林寺	西直門	高梁橋	樂善園
極樂寺	大真覺寺	白石橋	廣源圃
萬壽寺	萬壽街	暢春園	賜春苑守備署
清華園	洪雅園	右園	泉宗廟
永安寺	聖化寺	永通寺	龍翔寺
覺生寺	西苑園	圓明園	長春園
圓明園守備署	昆明湖	功德寺	雍山
清漪園	大毅恩延壽寺	耶律楚材墓	畫眉山
龍沐廟	玉泉山	龍王廟	靜明園
呂公洞	上下華嚴寺	西山	中宮遊擊署
靜宜園總署	普陀山	荷葉山	十方普覺寺
親音堂	隆教寺	五華寺	廣泉寺
圓通寺	大和巷	退翁亭	廣應寺

靜宜園	碧雲寺	香山寺	十八盤山
洪光寺	宗鏡大昭廟	寶相寺	中峯
翠巖寺	杏子口	靜宜園把總署	盧師山
平坡山	嘉禧寺	馬鞍山	仰山
滴水巖	油雲寺	百華山	燕山
西湖山	百望山		

唐土名勝圖會卷之四

編述 法橋 岡田玉山尚友

故兼葭堂木世肅先生遺意 岡 熊岳文暉

大原東野民聲

畫 全

外城

外城の内城の南面と包むる城なり。南面の巨門三ノ羅城門七。正南と永定門。正南の東を光  
とて廣渠門西を廣寧門と云ふ北の隅は西の隅より西に八里高二里  
 東は正陽門西の隅は西の隅より西に八里高二里。正南永定門即内城正陽門の正中なり。此通  
 街と正陽大街と云ふ街の北は正陽橋あり。石梁三三陽門外城河を跨る橋の南は棹櫻橋と  
 番匠人月と云ふ橋の北は月城の城門の外圍城の城圍くす月  
 正陽外門あり。圓門常開て開く時は正陽門の西の隅より西に八里高二里。東の方廣渠門街の西  
 方廣寧門街と直に通す。其正陽街の十字街と猪市口と名く。正安門街

正陽門正陽橋

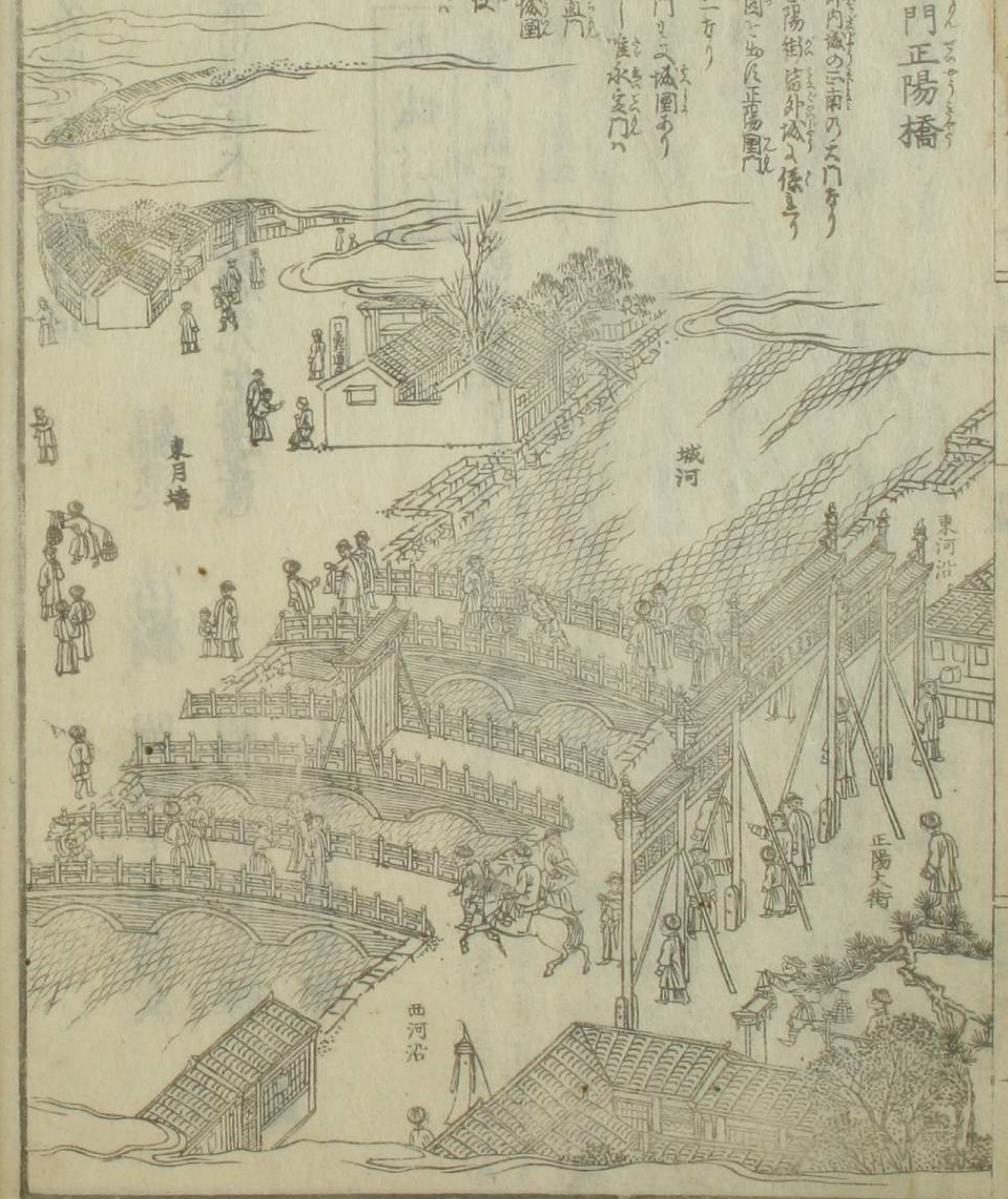
正陽門即內城之正南之門也  
 正陽橋正陽街皆外城之係也  
 凡此三圖之出正陽門  
 三餘一各一也

外城之七門之正陽門  
 其被圍一正陽門  
 內城之西直門  
 正陽門之西直門

角之正陽  
 西直門  
 城圍は

城河の水  
 正陽門  
 正陽街

城河の水  
 正陽門  
 正陽街  
 正陽橋  
 正陽街  
 正陽門  
 正陽街  
 正陽門  
 正陽街



正陽門正陽橋



京師

外城

卷之四





直内城の崇文門は通下を安門の丁字街と年街とを斜に内城の  
宣武門は通内城の正中より

外城之東

觀音大士廟

月城の北東邊あり

開帝廟

月城の西邊あり

龍王堂

月城の東門の外東城の根より

東月墻

東門の外正陽橋あり

正陽大街石道の旁に棧蓋の棚房多くて棧とは中  
の官民群集して日用の雜物果菜の屬を賣入大街東側市房の後

街と悉く商賈匠作貨棧と用ては業とあり

打慶園と稱北を水河沿いの内を南北の考取日あり

二條三條に條より河内より又三條河内斜に三河あり其大樹の内

查樓 内市より查樓 蘇堤の南に皇宮の查樓あり

蕭公堂 打慶園より明の高晉の同建祠の由は洪都御河に

北管内北東守備署

蕭公堂の後

南城吏目署

打慶園の南

西亞佑宮

殿より明の嘉祥中又建許旌揚真人

開帝廟

高廟相の明

崇真觀

打慶園の南巷

吳王錢修祠

開帝廟

中城吏目署

鐵山寺

三里河橋の西あり

三里河橋と稱理せり

開帝廟

中營參將署

崇文門の外

崇文門稅務署

中營東南二

身備署

火神廟

都電君廟

東城吏目署

爐聖菴

老君を祀り

左平宮

都電君廟

東城吏目署

爐聖菴

老君を祀り

卧佛寺

都電君廟

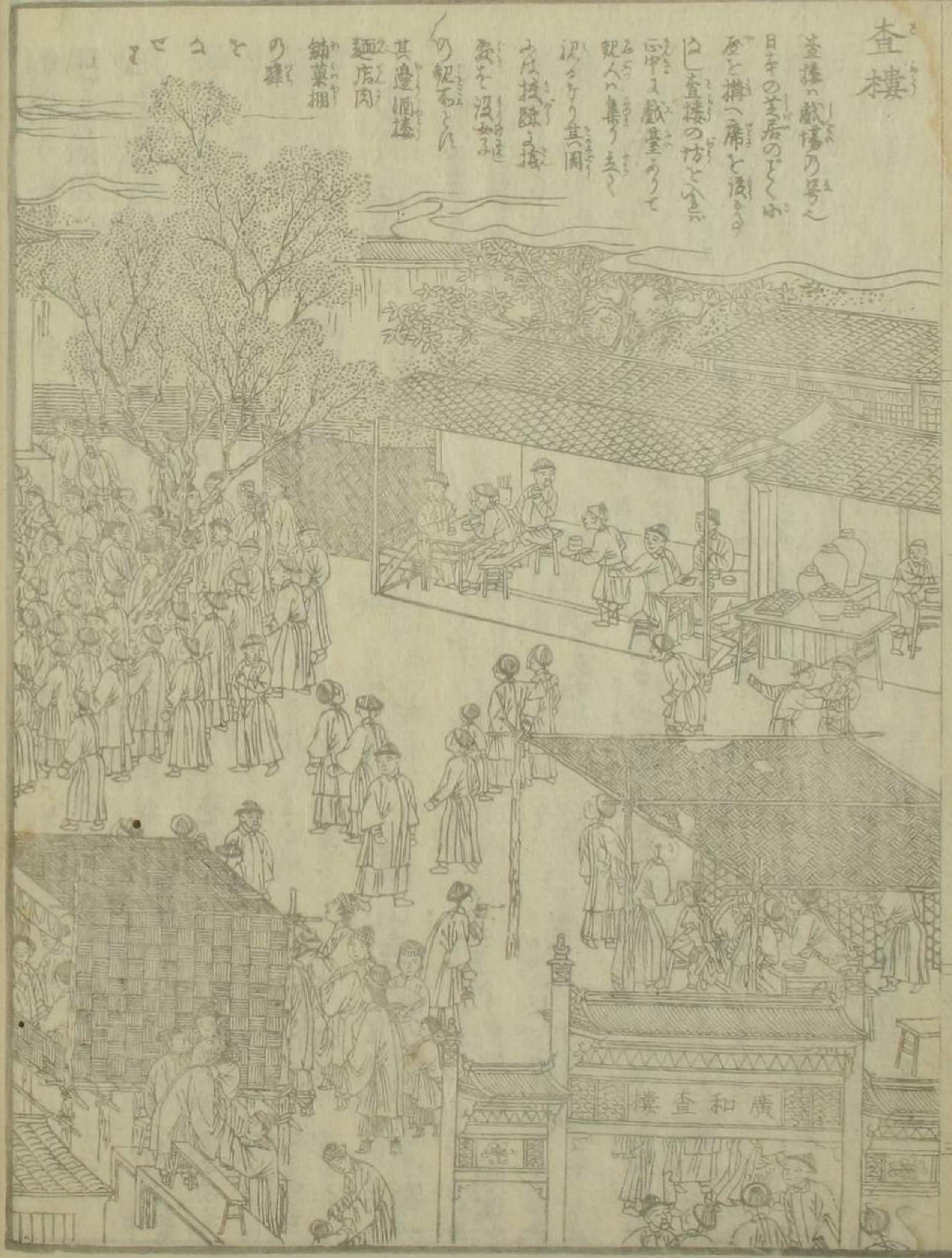
東城吏目署

爐聖菴

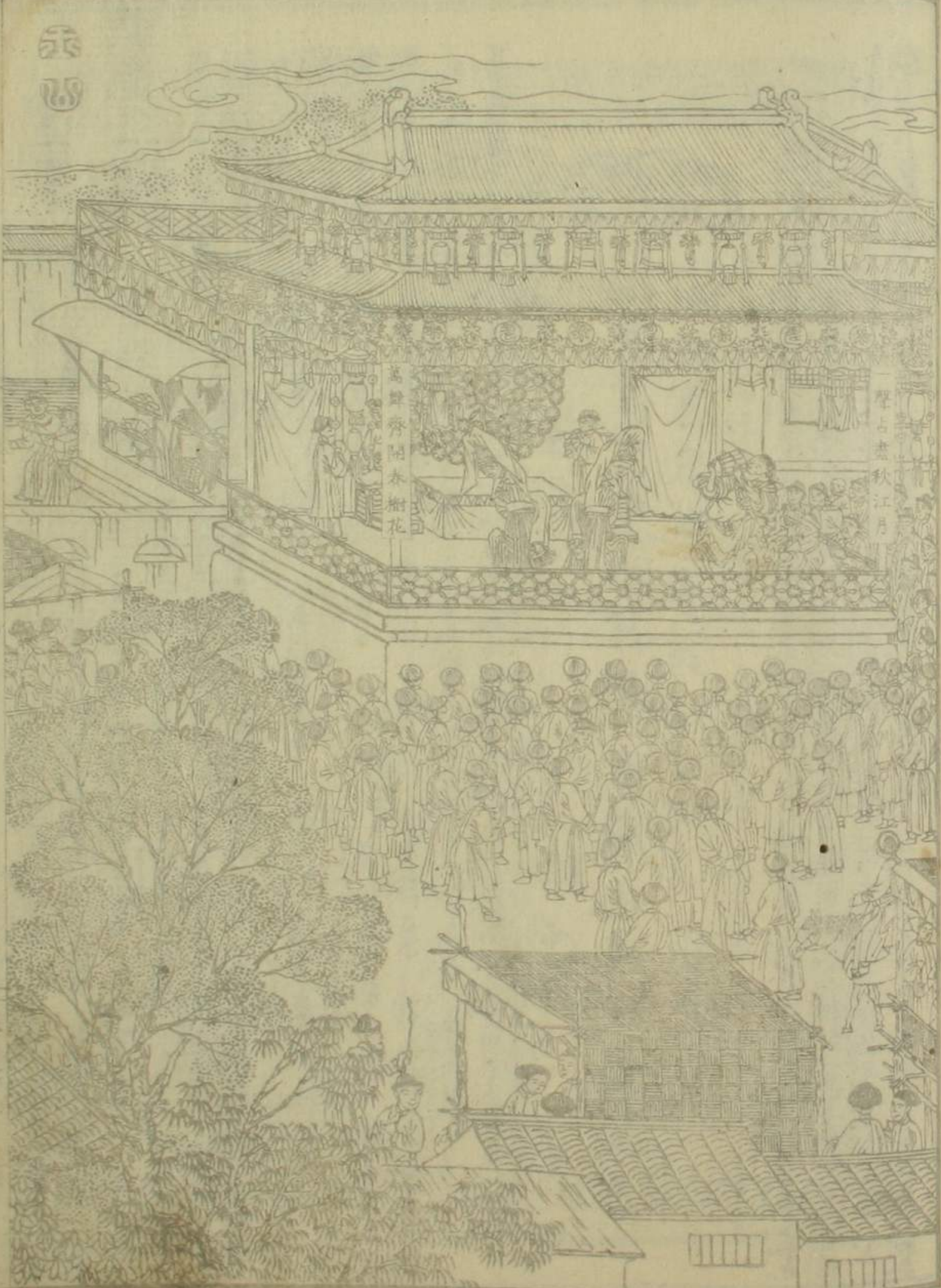
老君を祀り

老君を祀り

查樓



查樓の戲場の号  
 日中のまはりのどく  
 をと構へ席と濁る  
 は「查樓の方と小  
 甲」戲臺よりて  
 祝人の舞うま  
 祝さけり其間  
 には技師の技  
 藝を没する  
 の紀ある  
 其邊酒徒  
 廻る内  
 鋪業  
 の賑



永  
 西

京師

外城

卷之四

隆安寺

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

廣保門

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

育嬰堂

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

夕照寺

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

魏之坊

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

過夕照寺

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

田來僧院

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

林鳥寂

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。

萬柳堂陪讌益都公詩 古徐乾學

絲綸閣外唱彤駟 攜客還為杜曲遊 種樹

已成金澗勝鑿池 初引玉宗涼綺堂 晴帶

千峯秀碧宇雲開 萬井秋醉吐車茵 何足

道夕陽洗爵重淹留 森世黃書

法藏寺

京師の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。隆安寺の東南あり。明の高僧中蜀の僧徒某と云者募修して寺を建てた。隆安寺と名づく。



金魚池



此の所三河の類に或は侯  
李偉の別業あり河水と引  
て園中より金魚を養ふ  
以て小舟とて池の中  
に遊ばしめり  
あり砌の石階梅の軒の  
下は梅の園あり其秋  
梅の園に門を構へり  
梅の園の石階梅の軒  
とて其外此亭中用を  
松西及び松北に松を  
梅の園の取らざるのこ  
池と松と梅とを以て  
の梅園を多しとて梅園  
ありて松園あり流水あり  
梅と松とを以て松園梅  
亭あり水園二を歴て  
松西向の長廊あり水邊  
を小舟とつゝ松園を遊



李園小集  
小橋行過柳溪濱  
為訪園亭竟日間  
出郭已知依綠水  
登樓更喜見青山  
寒泉落木疑邱壑  
瘦馬深衣自往還  
剡米東籬尋舊約  
君應無夢到塵寰

明劉同升詩



京師

外城

卷之四

东小市

東小市の南の隅に十餘畝あり此不日宣外の三府朝市也其交易する物或は西のありては衣履也

南宮東南守備署

南宮東南守備署

精忠廟

幽燕遺廟壯千秋可憐屈膝秦長脚得藉陳王解免不金陳王元室故唐帝也

天壇

正陽門外永寧門の東あり

恒壇を繞るとり九九里十三歩一名圓丘と稱以圓壇

三成壇南又向

三成壇南又向の圓の南の隅に九九里十三歩一名圓丘と稱以圓壇

三成壇南又向の圓の南の隅に九九里十三歩一名圓丘と稱以圓壇

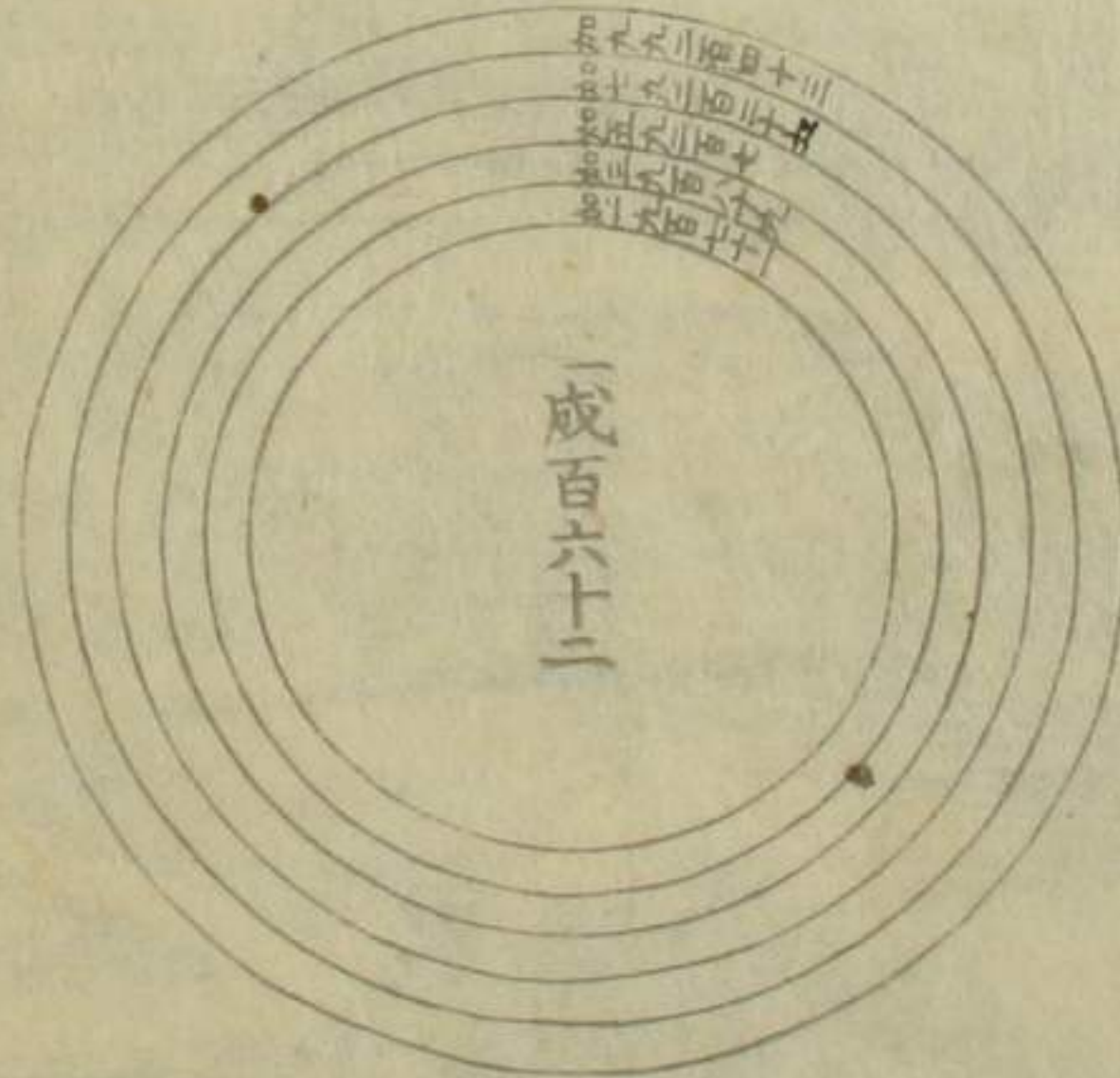
三成壇面甃石之圖



成二



成三



三成壇三層の圓の南の隅に十餘畝あり此不日宣外の三府朝市也其交易する物或は西のありては衣履也

皇宮宇 皇宮の南の隅に十餘畝あり此不日宣外の三府朝市也其交易する物或は西のありては衣履也

神庫神厨 神庫神厨の南の隅に十餘畝あり此不日宣外の三府朝市也其交易する物或は西のありては衣履也

内恒 内恒の南の隅に十餘畝あり此不日宣外の三府朝市也其交易する物或は西のありては衣履也

祈年殿 祈年殿の南の隅に十餘畝あり此不日宣外の三府朝市也其交易する物或は西のありては衣履也

皇乾殿 皇乾殿の南の隅に十餘畝あり此不日宣外の三府朝市也其交易する物或は西のありては衣履也

祈年殿内庭 祈年殿内庭の南の隅に十餘畝あり此不日宣外の三府朝市也其交易する物或は西のありては衣履也

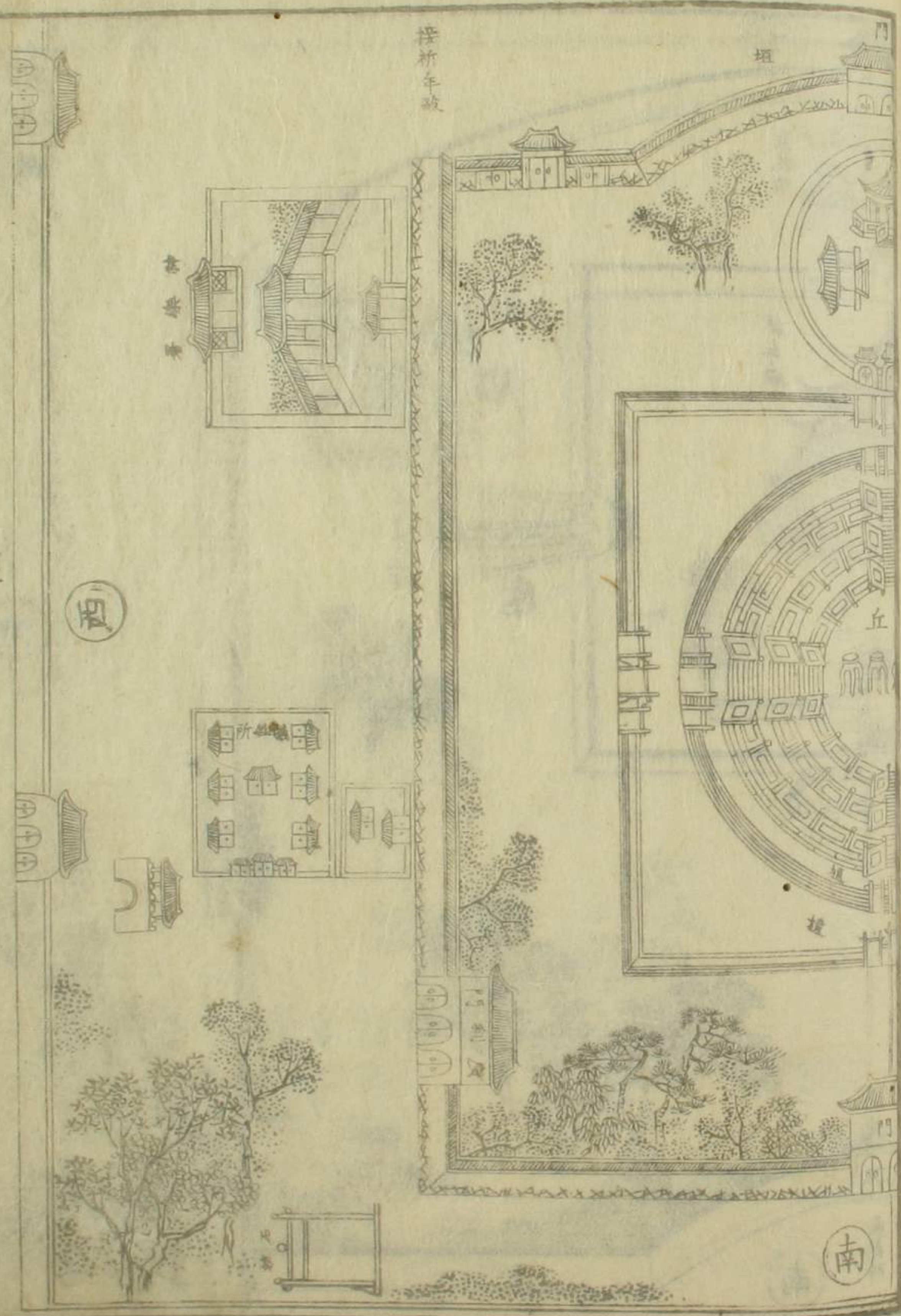
唐土名券圖會

京師

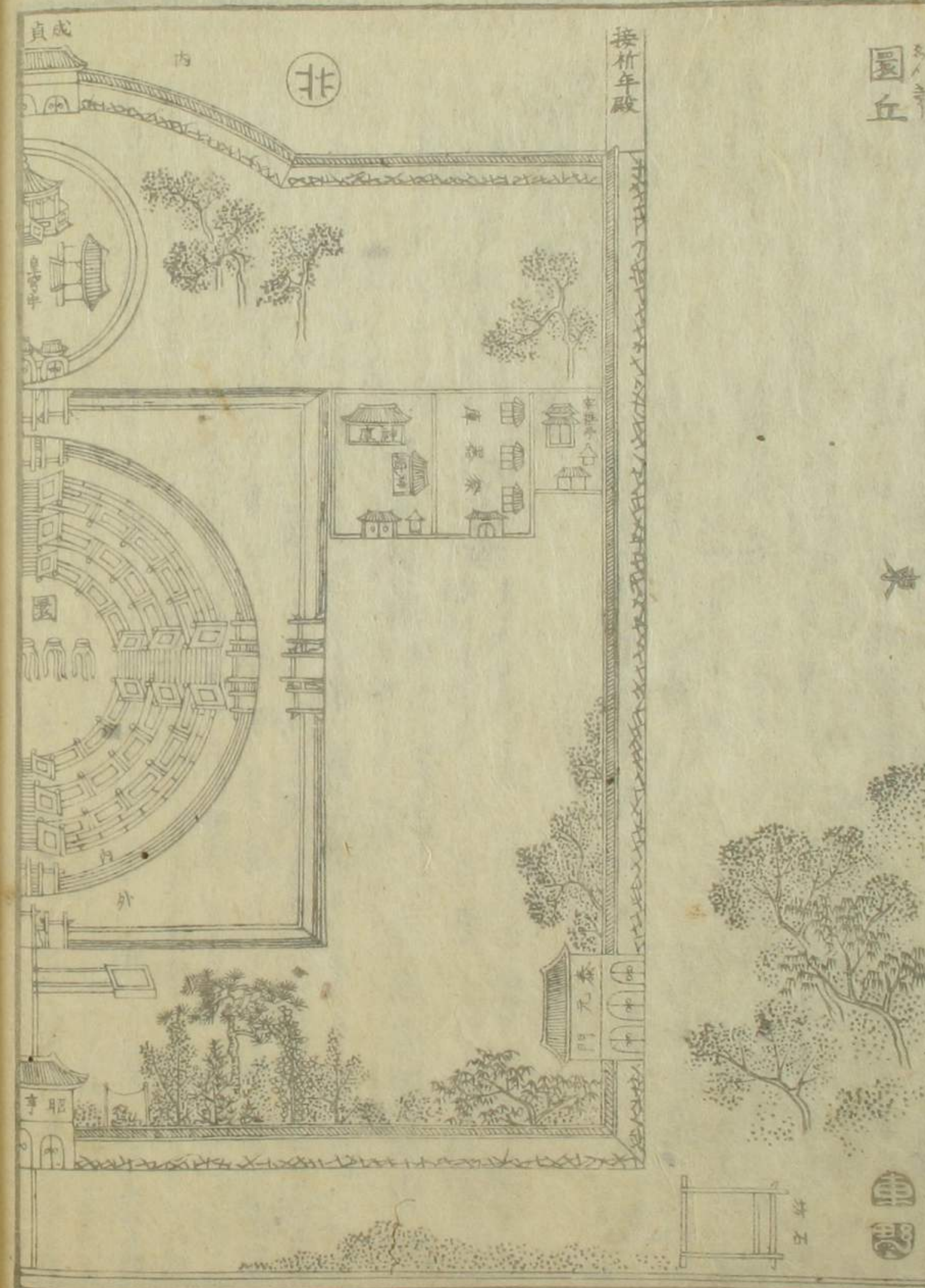
外垣

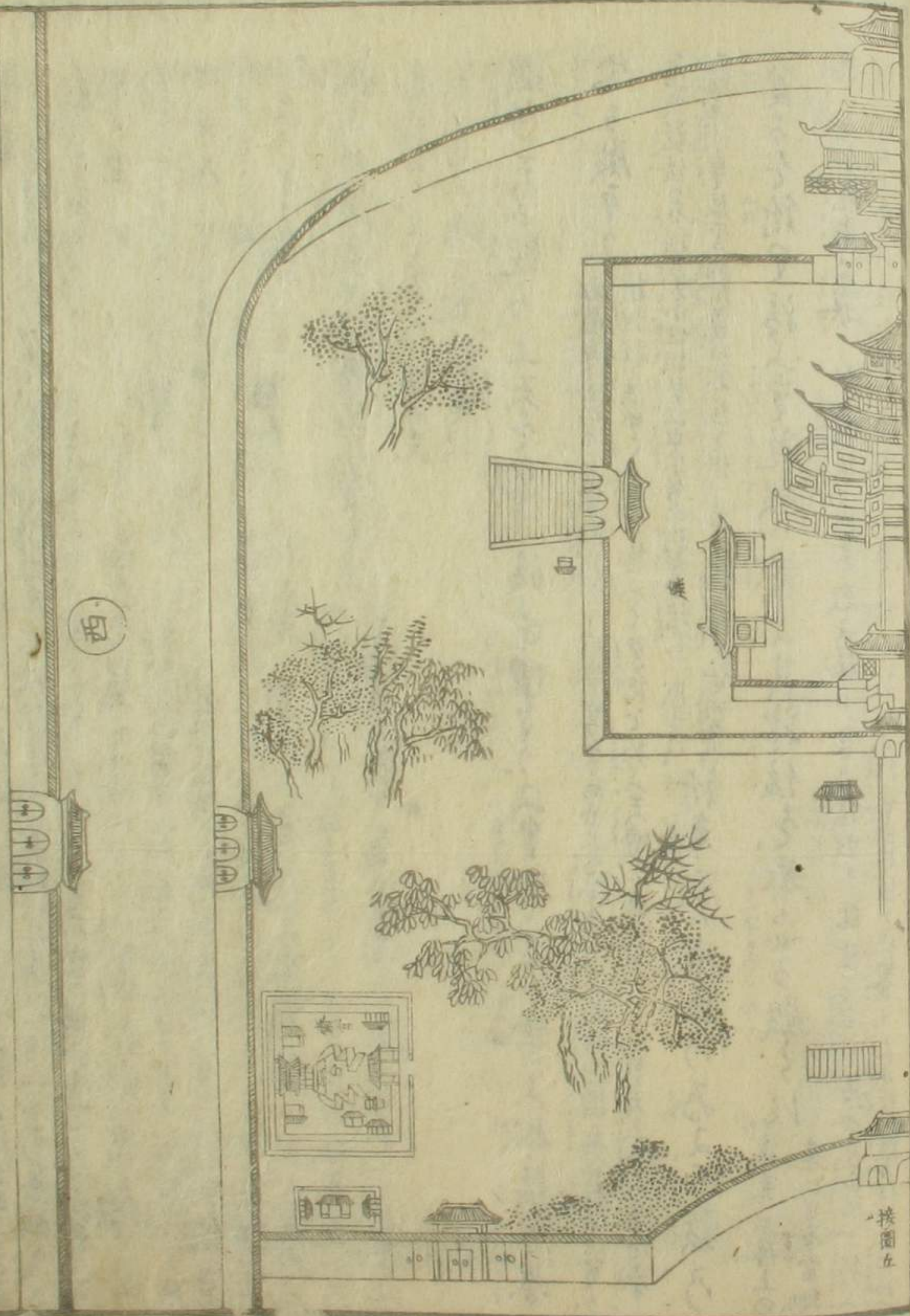
外城

卷之四

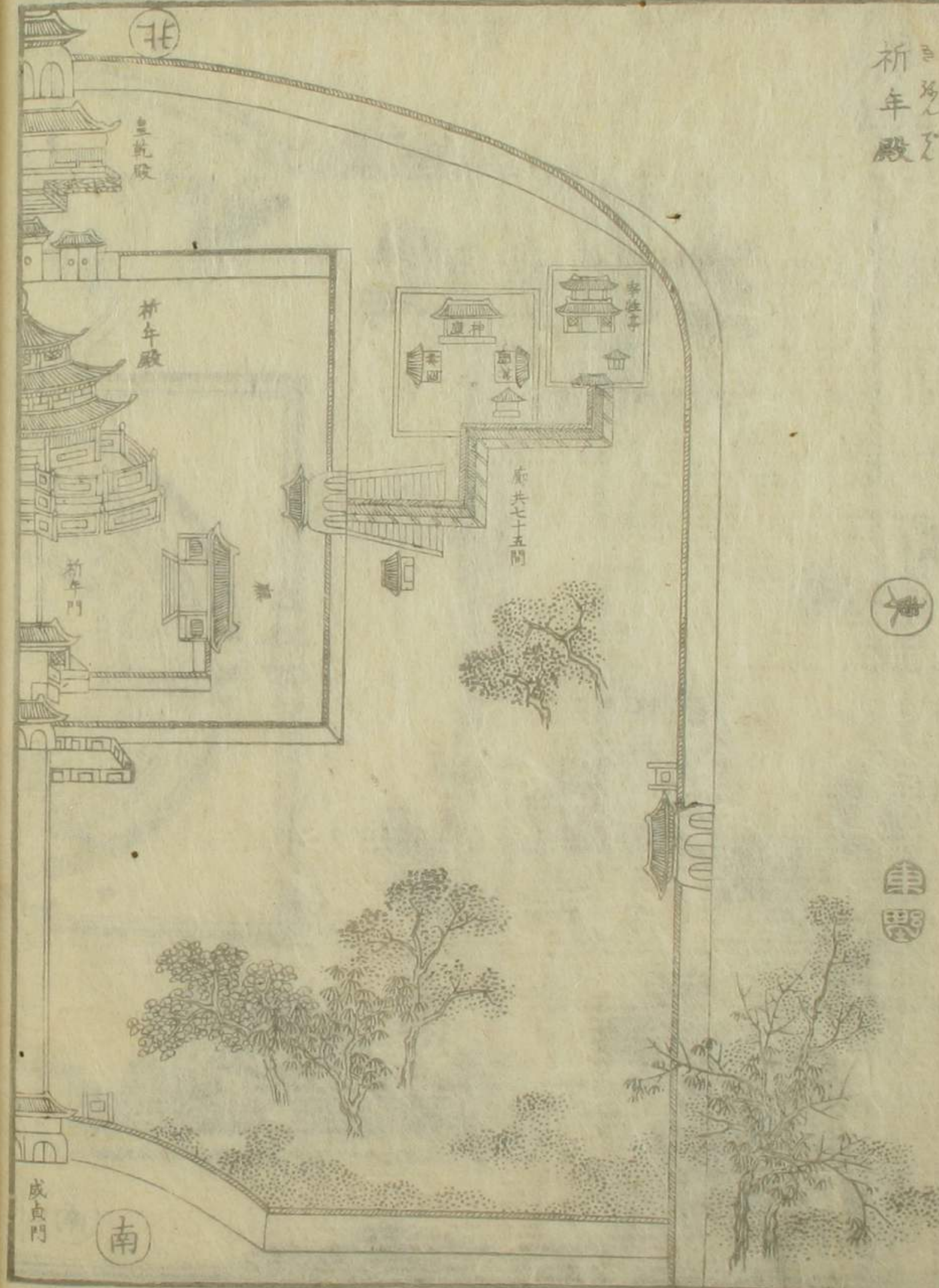


園丘





祈年殿



北

皇極殿

祈年殿

祈年門

殿共七十五間

南

成貞門

皇極殿

九







吳梅村が寓居した虎坊橋の小屋  
深沢にあり、康熙の同治の年  
此の寓居曾て縣と集む其の  
中  
旁人錯比楊雄宅  
異代應教庾信居  
これをも書して種々懸く

孫少宰義澤が故居、泰家  
橋の西あり、名て孫公圃といふ

朱葵草集孫侍印研山  
齋詩  
勝序愁和輅高齋近許過  
圖書留客少花藥閉門多  
興每耽此器衣徒挂藤蘿  
千秋論述作出憂本同科



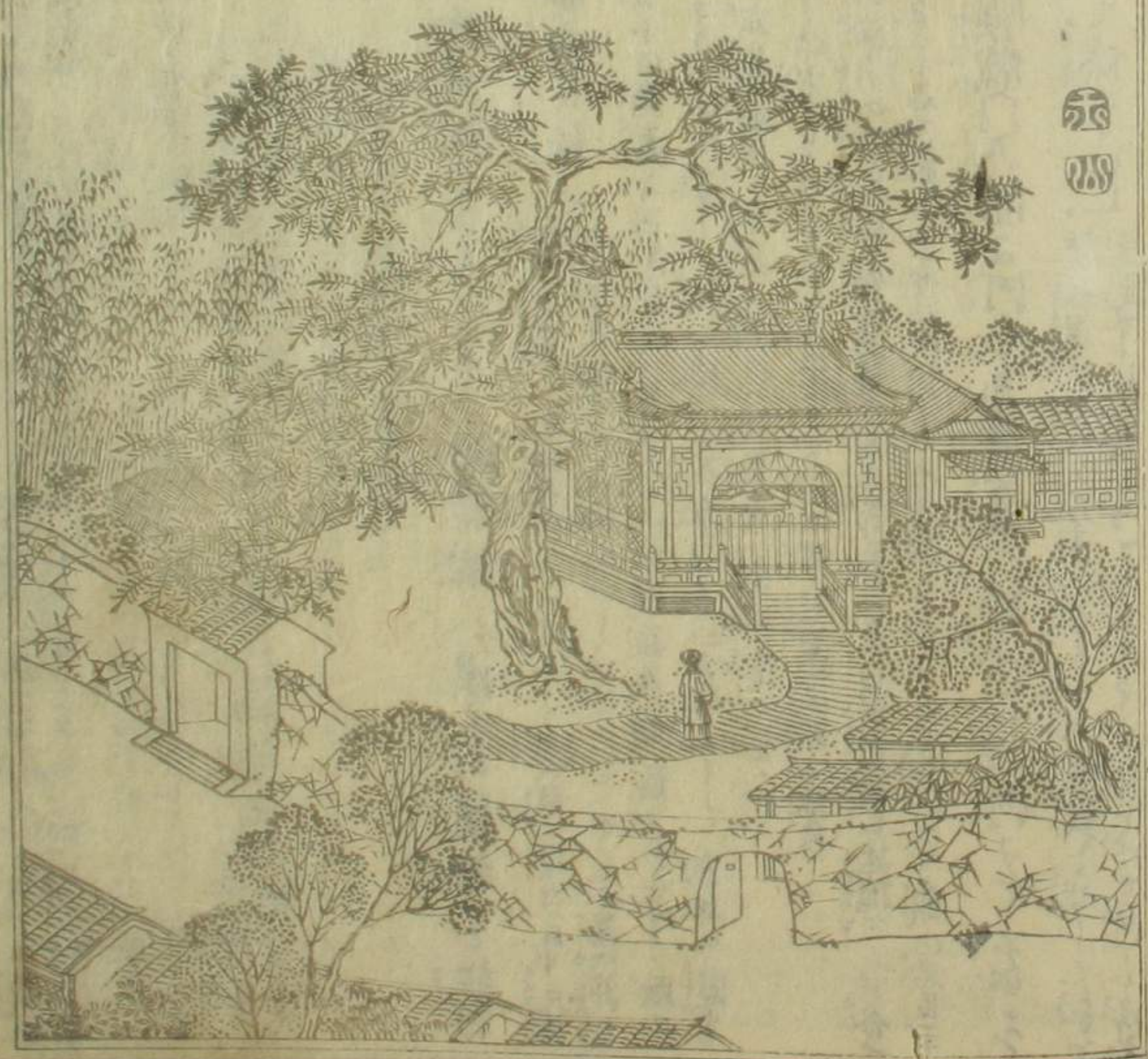
車野

熊岡

士

鐵老鶴廟

鐵老鶴廟の記  
殿の結句の上は鐵と制する  
鶴雀二を没く凡そこれより  
て旋轉を屋上より果と  
くみろを防ぐたれは又没す  
又庭を槐の古樹あり  
明の嘉祿甲寅割澤が  
碑あり萬曆庚子の年  
送りたる謫一宮今又



永野

○永光寺 唐昭宗之西元元之附太尉寺也曹州下之修青州之觀也 其寺之觀也其寺之觀也其寺之觀也

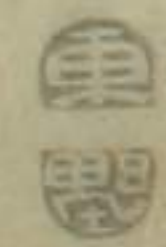
○松陽潭林 松陽潭林也松陽潭林也松陽潭林也 其寺之觀也其寺之觀也其寺之觀也

○琉璃殿 西河沿南橋也 此所琉璃殿密多あり當時滿人漢人の監督と設け

○三忠祠 上斜街入りて 此所三忠祠也此所三忠祠也此所三忠祠也

○順成門 西河の 此所順成門也此所順成門也此所順成門也

洗象行 王士禎 水關岩、柳陰碧實馬流、蘇分絡繹日中傳呼洗象來、玉河波駐珊瑚、玉頂更鉦鼓于雲霄、霄萬丈、翠屏如秋宵、帝毛、靈奴踞象頂、邱山不動何岩、堯岸邊、突兀二十四、直下波濤、又崩、墜、縱橫欲蹴、毫、龜、宅、騰、達、還、成、鶴、隊、乍、如、昆、明、習、門、戰、萬、乘、旌、旗、眼中見、又如列陣、昆陽城、雷雨行、天恩神、驚、如、子、胡、旋、氣、道、社、忽、沒、中、流、躍、巨、浪、掀、波、一、躍、萬、人、呼、蟠、如、出、層、霄、上、今、年、宰相、收、夜、郎、技、南、照、况、求、王、章、遠、隨、方、物、貢、天、開、此、壯、王、仗、金、塔、高、聖、朝、自、不、貴、異、物、致、此、心、是、感、避、荒、黃、門、鼓、吹、暮、復、動、海、立、山、松、吟、浩、洶、大、秦、獅子、多、威、神、山、林、豈、是、天、家、珍、春、嶽、鼎、新、書、圖、鑑



洗象



洗象要具

笛



長六寸計

歌口以竹作

牛の角にて造り多分は皮にて  
裁の進退を令ん

校



長一丈計

圖々全え象と洗え

牛の角にて制  
洗打と技て裁の  
脚を握ひ動かすを制ん

耳鉤



象の耳をくちめて荷をかける  
て繋ぎたり入柄よくゆる長に寸餘

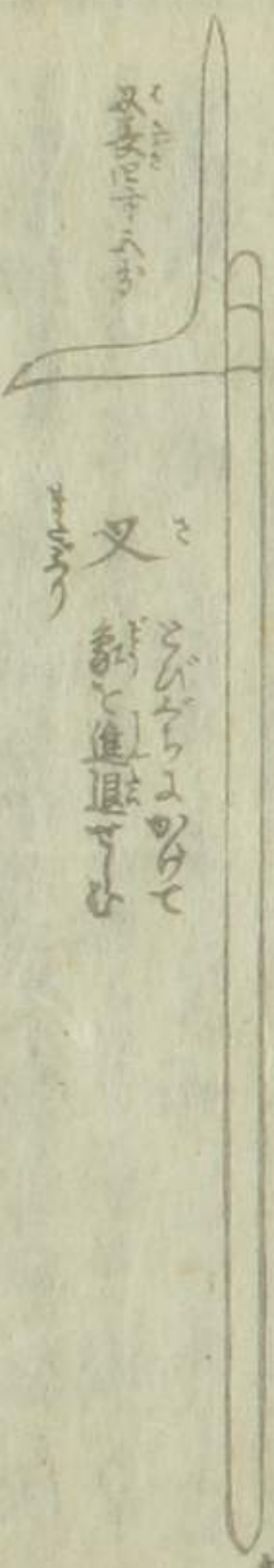
索長八尺六寸計

笮



象と洗入竹をうらかり

衝



柄の長三尺餘

又  
象の角をうらかりて  
糸と進退を令ん

計寸九制鉄



掃

頸索



頸索  
雄象の  
三尺九寸  
雌象の  
二尺九寸  
雄象の  
三尺二寸  
雌象の  
二尺二寸

け籠  
雄象の三尺  
雌象の二尺三寸

椀  
河の中を流して  
象の鼻を洗す



校  
引



けし移相帽尚標鞋隨分琴書占小齋  
 老古逢去去信借為貪花市任科  
 街 朱竹徑移居捲市 藍保博 毘圖

廣寧門 外城の西門なり

○白紙坊 白紙果寺南にあり

○火庫局 白紙坊の西南

右安門 外城南の西門なり

○聖安寺 午樹のふもとにあり

御書カクハ三世佛の像三あり蓋物あり今これを祥明園に移さる又海澄佛像一あり其一二は元  
 帝御書の額及び御製法源寺の碑あり又乾隆十二年修ありて御書之像の碑と云ふ  
 碑は佛の像と刻し蓋物あり後には遠慶の像を刻し蓋物あり今一は元帝御書の額及び御製法源寺の碑あり  
 像は元帝の像と刻し蓋物あり萬曆己酉の年あり金の世に奉安寺に祀りたる像と寺中  
 ○寄園 蓋物の西南にあり今これを祥明園に移さる又海澄佛像一あり其一二は元  
 帝御書の額及び御製法源寺の碑あり又乾隆十二年修ありて御書之像の碑と云ふ  
 碑は佛の像と刻し蓋物あり後には遠慶の像を刻し蓋物あり今一は元帝御書の額及び御製法源寺の碑あり  
 像は元帝の像と刻し蓋物あり萬曆己酉の年あり金の世に奉安寺に祀りたる像と寺中

屋角時同景晚鴉土橋二帯任周應行人欲認詩人富光樹郎盡茅二家  
 苔垣舊判玲瓏向土室新安曲蓋林莫話守園全盛事酒旗歌扇已滄涼

○惘忠寺

某市の西南隅湖の西なり唐の貞觀十九年建立西門外高二十丈あり  
 帝御書の額及び御製法源寺の碑あり又乾隆十二年修ありて御書之像の碑と云ふ  
 碑は佛の像と刻し蓋物あり後には遠慶の像を刻し蓋物あり今一は元帝御書の額及び御製法源寺の碑あり  
 像は元帝の像と刻し蓋物あり萬曆己酉の年あり金の世に奉安寺に祀りたる像と寺中

○怡園

某市の西南隅湖の西なり唐の貞觀十九年建立西門外高二十丈あり  
 帝御書の額及び御製法源寺の碑あり又乾隆十二年修ありて御書之像の碑と云ふ  
 碑は佛の像と刻し蓋物あり後には遠慶の像を刻し蓋物あり今一は元帝御書の額及び御製法源寺の碑あり  
 像は元帝の像と刻し蓋物あり萬曆己酉の年あり金の世に奉安寺に祀りたる像と寺中

○水月潭

某市の西南隅湖の西なり唐の貞觀十九年建立西門外高二十丈あり  
 帝御書の額及び御製法源寺の碑あり又乾隆十二年修ありて御書之像の碑と云ふ  
 碑は佛の像と刻し蓋物あり後には遠慶の像を刻し蓋物あり今一は元帝御書の額及び御製法源寺の碑あり  
 像は元帝の像と刻し蓋物あり萬曆己酉の年あり金の世に奉安寺に祀りたる像と寺中

○王皇廟

某市の西南隅湖の西なり唐の貞觀十九年建立西門外高二十丈あり  
 帝御書の額及び御製法源寺の碑あり又乾隆十二年修ありて御書之像の碑と云ふ  
 碑は佛の像と刻し蓋物あり後には遠慶の像を刻し蓋物あり今一は元帝御書の額及び御製法源寺の碑あり  
 像は元帝の像と刻し蓋物あり萬曆己酉の年あり金の世に奉安寺に祀りたる像と寺中



大學士陳文簡邸

陳文簡曰... 魏正朔曰... 晉日堂の類... 廟照帝の宸翰あり。

開帝廟

宋市胡曰... 明の天啓年中... 魏正朔曰... 廟照帝の宸翰あり。

○張相云廟 張相云廟... 魏正朔曰... 廟照帝の宸翰あり。

○元帝廟 元帝廟... 魏正朔曰... 廟照帝の宸翰あり。

○晉陽巷 晉陽巷... 魏正朔曰... 廟照帝の宸翰あり。

○黑密一廠 黑密一廠... 魏正朔曰... 廟照帝の宸翰あり。

此地世流... 浦華... 都人... 其路... 聖宮... 此其... 涼柳... 茶... 都下... 魏正朔曰... 廟照帝の宸翰あり。

崇圖突兀附南城  
木花為寒本眼  
倍雙闕差佳氣  
合三闕層  
疊晨雲橫風  
粟痿澹去陽  
燕趙悲歌終  
古情況有酒  
又同會  
合一杯便  
醉荆卿  
五目月入  
黑密廠登  
高峴德潛

中衛錄

黒密殿

一ノ宮  
上ノ宮



京師

外城

外城

卷之四



○慈愍庵 唐宮殿の南あり。恒遠近し。西偏に陶然亭あり。此庵の内。唐の慈愍大師の佛頂菩薩像と漆三隅の梵文と刻む。唐の慈愍大師の佛頂菩薩像と漆三隅の梵文と刻む。唐の慈愍大師の佛頂菩薩像と漆三隅の梵文と刻む。

○陶然亭 即慈愍庵の西あり。唐昭宗の年。即中落の建ち。唐の昭宗の年。即中落の建ち。唐の昭宗の年。即中落の建ち。

溪風吹面感晴暄  
 葦路蕭蕭鴨滿灘  
 六月陶然亭上葛  
 衣先借早秋寒  
 抗世駁陶然亭詩  
 澧水原吉書

○黑龍潭 先農壇の西隅あり。潭即方池にして水涸る付中。二の舟あり。唐の昭宗の年。即中落の建ち。唐の昭宗の年。即中落の建ち。

○都城隍廟 唐昭宗の年。即中落の建ち。唐の昭宗の年。即中落の建ち。唐の昭宗の年。即中落の建ち。

○東嶽廟 都城隍廟の東あり。唐昭宗の年。即中落の建ち。唐の昭宗の年。即中落の建ち。

○仁壽寺 唐昭宗の年。即中落の建ち。唐の昭宗の年。即中落の建ち。唐の昭宗の年。即中落の建ち。

斗姥宮 天橋の西あり。唐昭宗の年。即中落の建ち。唐の昭宗の年。即中落の建ち。

先農壇 正陽門外の西南角あり。天壇と相類し。名山川壇と云。垣牆の周回。六里中。二。天津壇地。低壇大歲殿。先農壇。藉田。多。竹。は。い。ま。り。先農壇の制。方。南。向。北。殿。南。方。は。七。八。級。あり。南。方。は。七。八。級。あり。南。方。は。七。八。級。あり。

觀耕臺 先農壇の東あり。正陽門の南あり。正陽門の南あり。正陽門の南あり。正陽門の南あり。

具服殿 觀耕臺の南あり。具服殿の南あり。具服殿の南あり。具服殿の南あり。

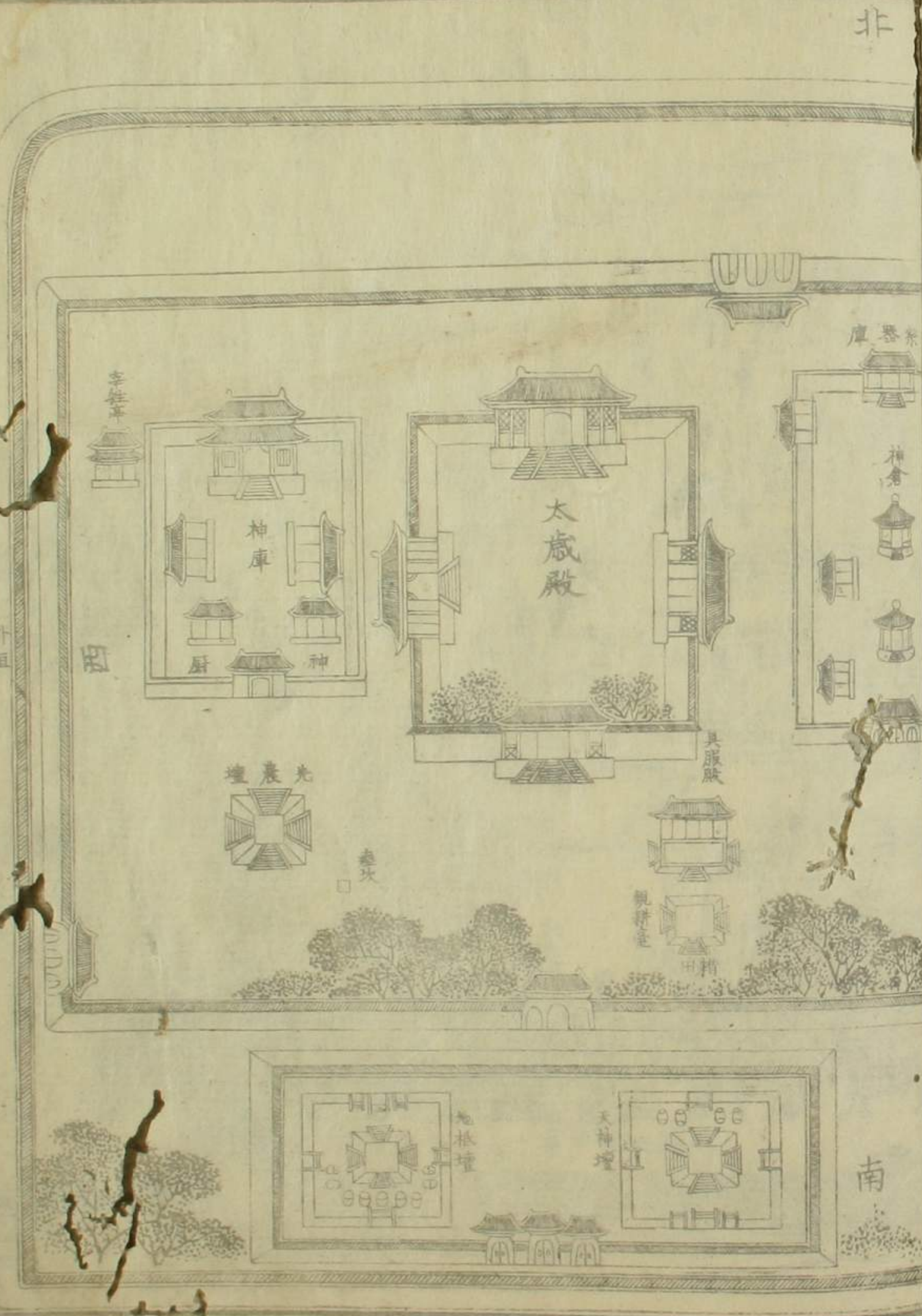
神倉 具服殿の南あり。神倉の南あり。神倉の南あり。神倉の南あり。

精田 觀耕臺の南あり。精田の南あり。精田の南あり。精田の南あり。

左歲殿 先農壇の東南あり。正陽門の南あり。正陽門の南あり。正陽門の南あり。

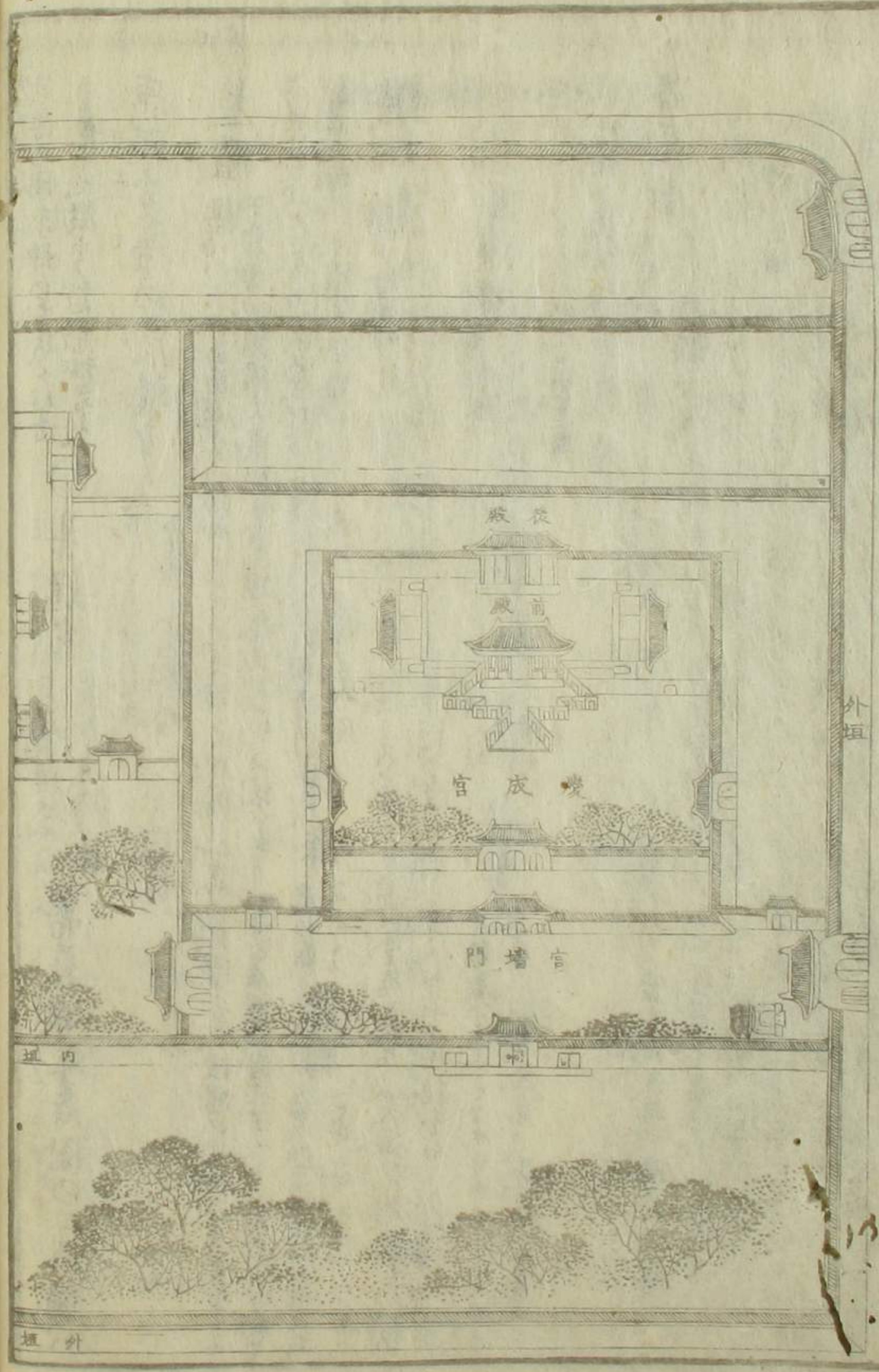
山川壇 正陽門の南あり。山川壇の南あり。山川壇の南あり。山川壇の南あり。

明の左祖廟 帝の受命。唐の昭宗の年。即中落の建ち。唐の昭宗の年。即中落の建ち。



北

南

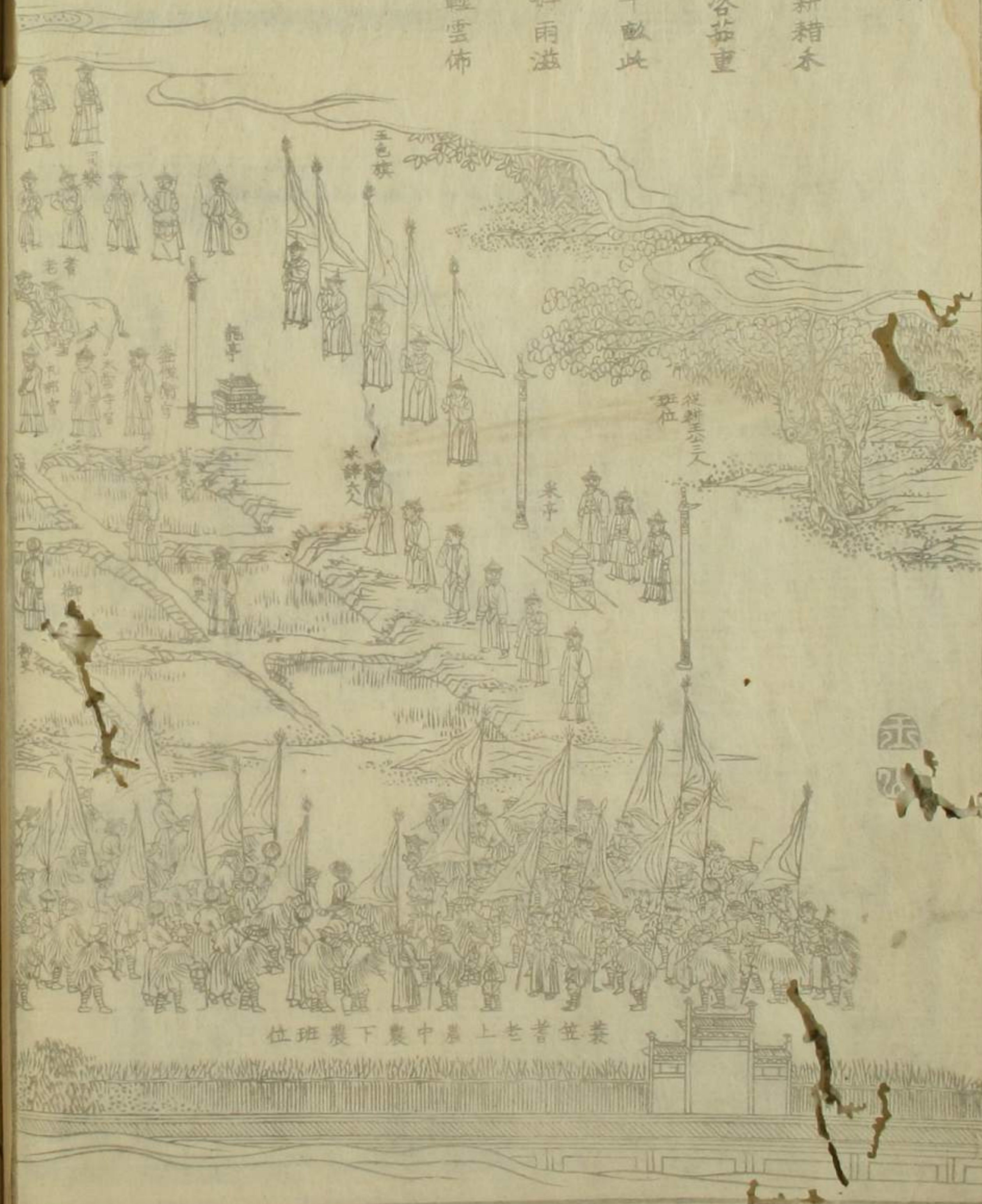


東

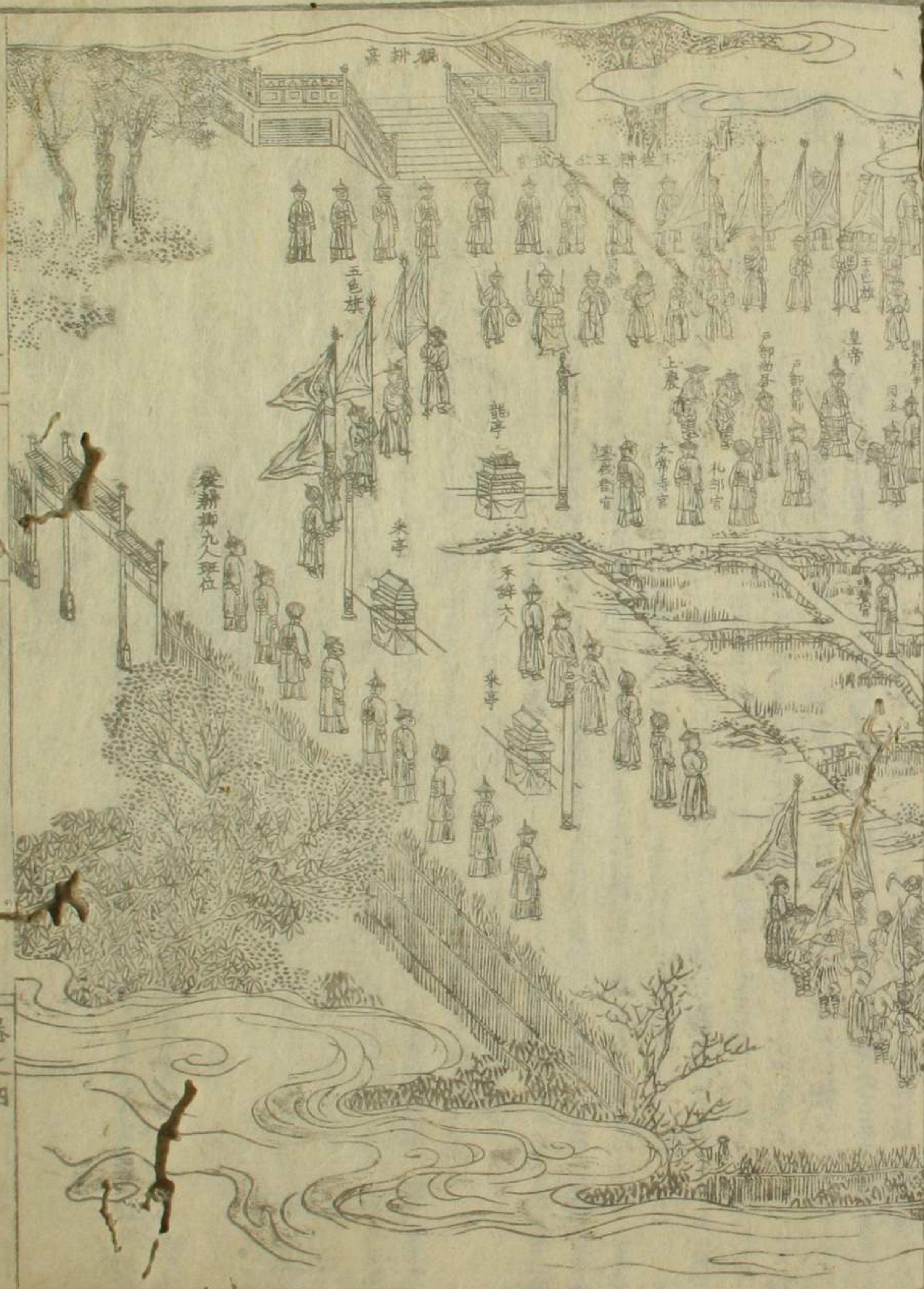
西

親耕

御製耕藉本  
詞  
穡事咨茲重  
古今  
藉田千畝此  
躬臨  
剛欣好雨滋  
春隴  
又看輕雲佈  
晚陰



位班農下農中農上老耆並耒



京師

外城









苑園郊坵

其水玉泉山より發て高深橋高深橋 京城の要路 支門外 寺 梁河に跨り

流と德勝門の外より發て別と二流とあり其一は水園より内城より御河より

一は松林園を出て東より流と安定齊化の二門京城の東 御河よりを経て通州より白河

と合流と

去城園德勝門の 外にありより一乃薊州の地なり亦薊郡此所舊館舍高樓建つ所なり

今悉く廢れ唯林木蒼鬱として蒼翠のき深し即系師八系の一ツ

して薊門烟樹と稱し○臥虎橋石橋○多寶佛塔明の肅宗の命 建つ所なり○

北極寺○功德林北極寺の 外にあり

方澤壇京城の東 支門の外にあり 壇の東方より地を起し方澤壇と云ふ 北極寺の東方にあり 壇の東方にあり 壇の東方にあり 壇の東方にあり

上城二城は八城の後に方澤壇の東方にあり二城の上方の左右は五城五城は方澤壇の東方にあり

山の形を數すものなり右の左右は方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

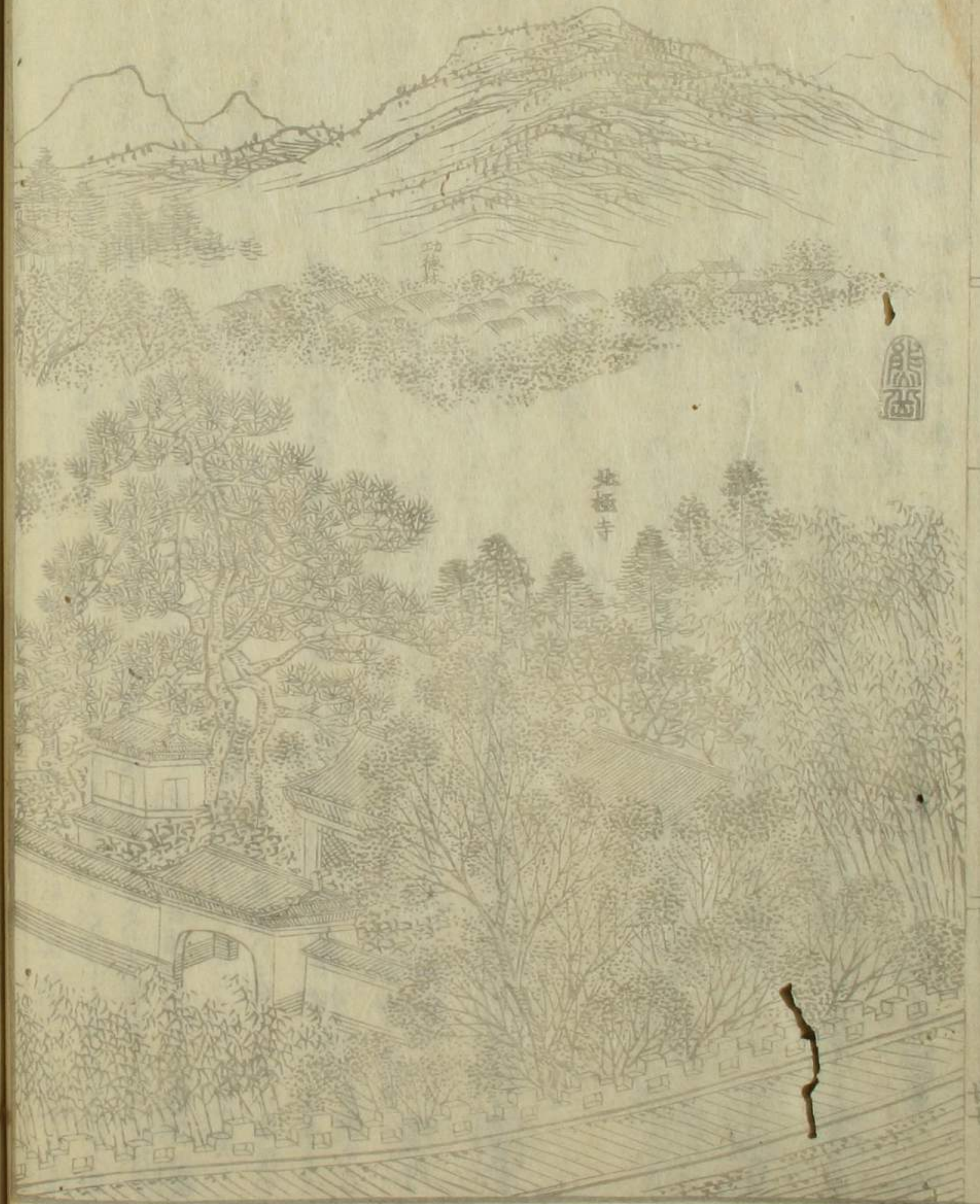
方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

方澤壇の東方にあり方澤壇の東方にあり

樹煙門薊



熊西

北極寺



多寶佛塔院

野色蒼々接薊門  
淡烟疎樹碧氛氲  
過橋酒慢依林見  
附郭人家遠近分  
翠雨落花行處有  
綠陰啼鳥坐來聞  
正京盡日多佳氣  
縹緲還看映五雲  
金切改作

張門

臥虎橋

順天府

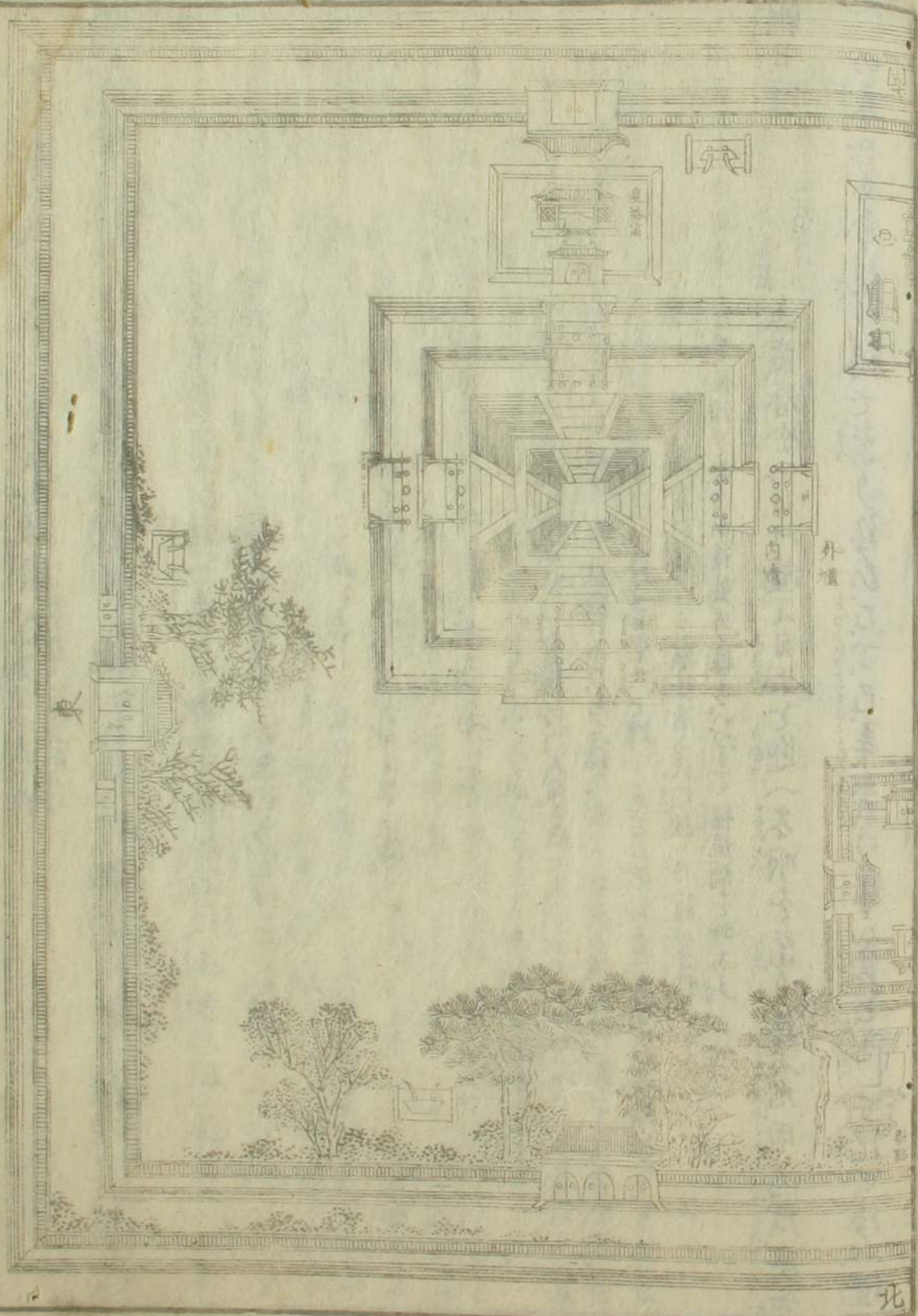
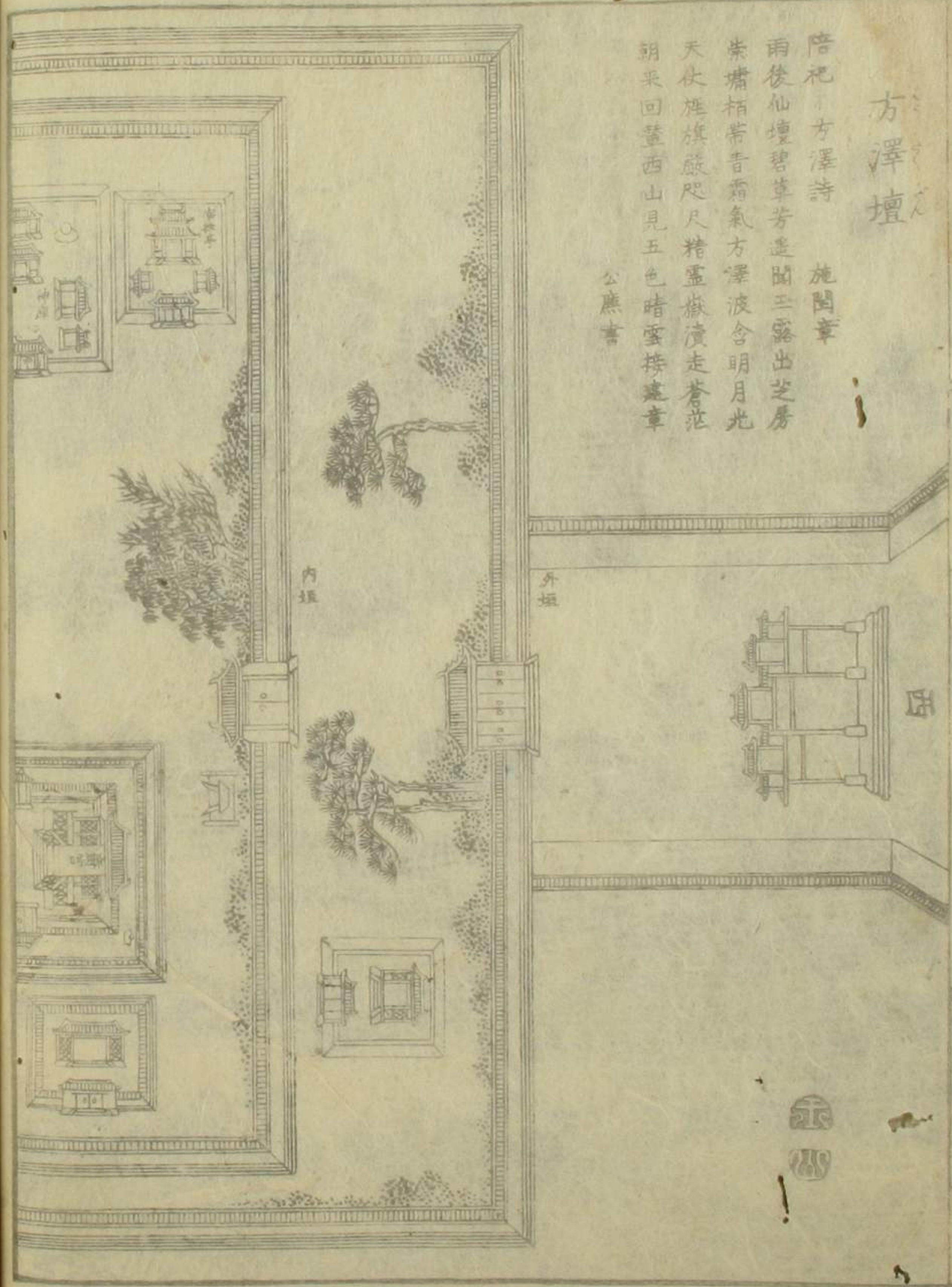
花園郊外

卷之四

方澤壇

陪祀方澤詩 施閔章  
 雨後仙壇碧草芳 遙聞三露出芝房  
 柴墟柏帶青霜氣 方澤波含明月光  
 天仗旌旗嚴咫尺 精靈嶽瀆走蒼茫  
 朝采回靈西山見 五色晴雲接建章

公庶書



順天府

花園郊坵

卷之四

金忠潔公強之墓 ○初在霞元君廟以上東城の東の山

東嶽廟東嶽の南の山あり 元の延祐年中遷らる累朝勅修し終に廟と改けて

これを守し心唐熙帝暨乾隆帝の御書扁額并に御製の碑詩をとり

世廟の聖像元の劉雲を造らるる大城南長春宮の都提法馬道順若路りて東嶽廟を創り外

其後此廟像劉雲が額するふらうとんばうらうらうの奉正系は勅ありて人の心像と想ふと

社せらるるなり此廟像劉雲が額するふらうとんばうらうらうの奉正系は勅ありて人の心像と想ふと

心社勅のいまは清らんが御牌を建て其れより多々世に傳へ奉正痛又却て人かを創らるる二日感を

りる者の中に或人かおちて祀すをとり奉正其門口人は後と謂て曰く速く我と本嶽廟といふを創りて廟を

其後其後此廟を建てて此廟を劉雲を祀すを創りて奉正系は勅ありて人の心像と想ふと

朝日壇朝陽門外東嶽廟の南にあり 毎歳春分の日此壇に日出と迎へ大明を奉り終に凡用丙戌庚壬

の多に皇帝親臨して祀せ終に壇

上の正位は金版を設大明之神位乃多と朱とんて書に壇の制ありて西に

金版を設大明之神位乃多と朱とんて書に壇の制ありて西に

南向宮門より及び相閣皆白石彫り南朱欄あり西門の外は燎壇一其西は棧橋二あり

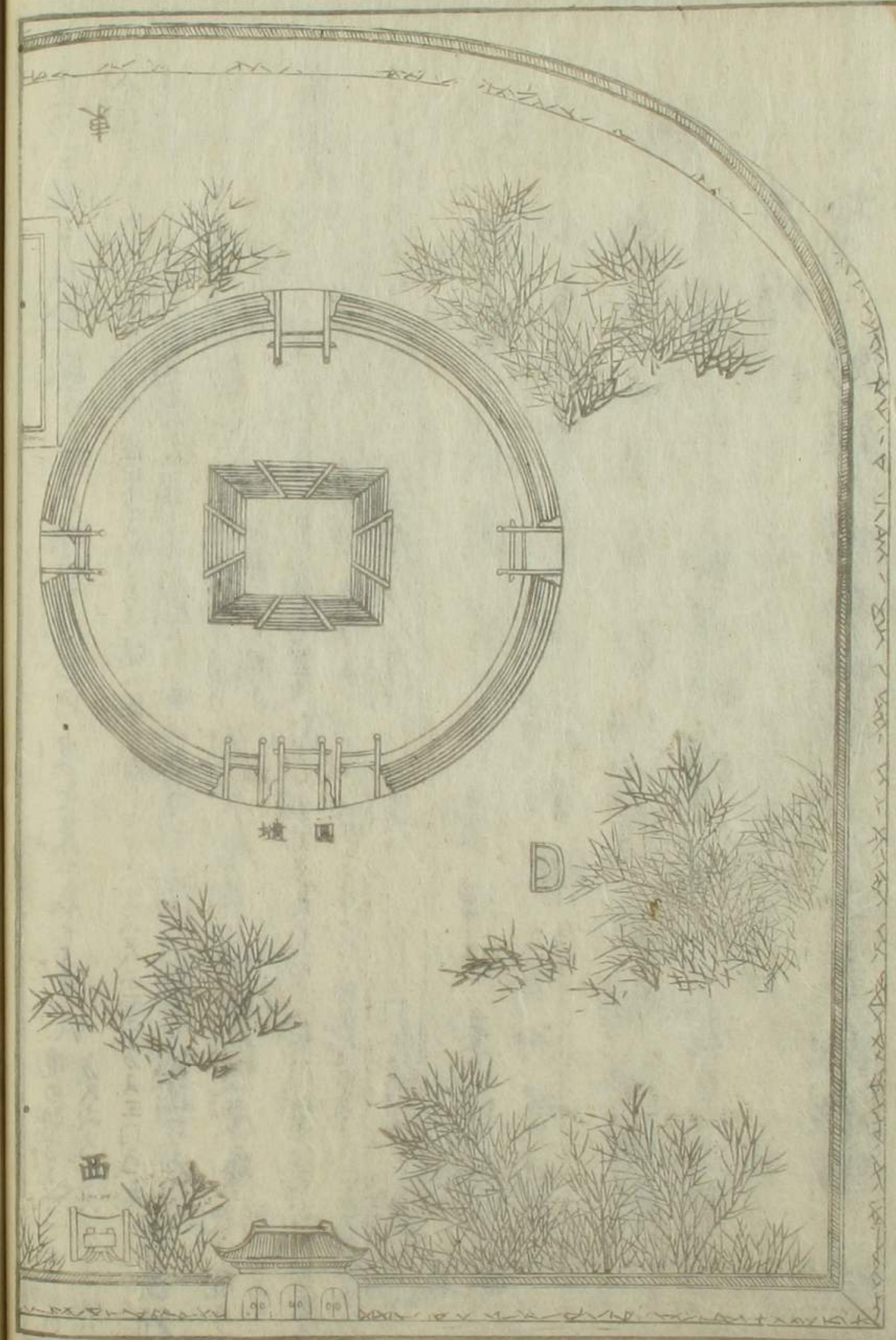
厨壇の山門の外あり 奉牲亭 水庫の北あり 祭器庫 樂器庫 撥摩庫 祭壇あり

具服殿 西の瀨より南より西に殿三間左右祀殿三間 壇垣 西門より南より西に壇垣あり

扶桑一出通寰中 壇墀一表風神  
 向東位首三尾光燭物象皆兩曜畫  
 無空經天度數乾坤合掃地規模  
 介澤同九獻遠終歸神緒金帛已射  
 右壇紅  
 芳之辨朝日壇陪祀侍 奉義 報

南

東

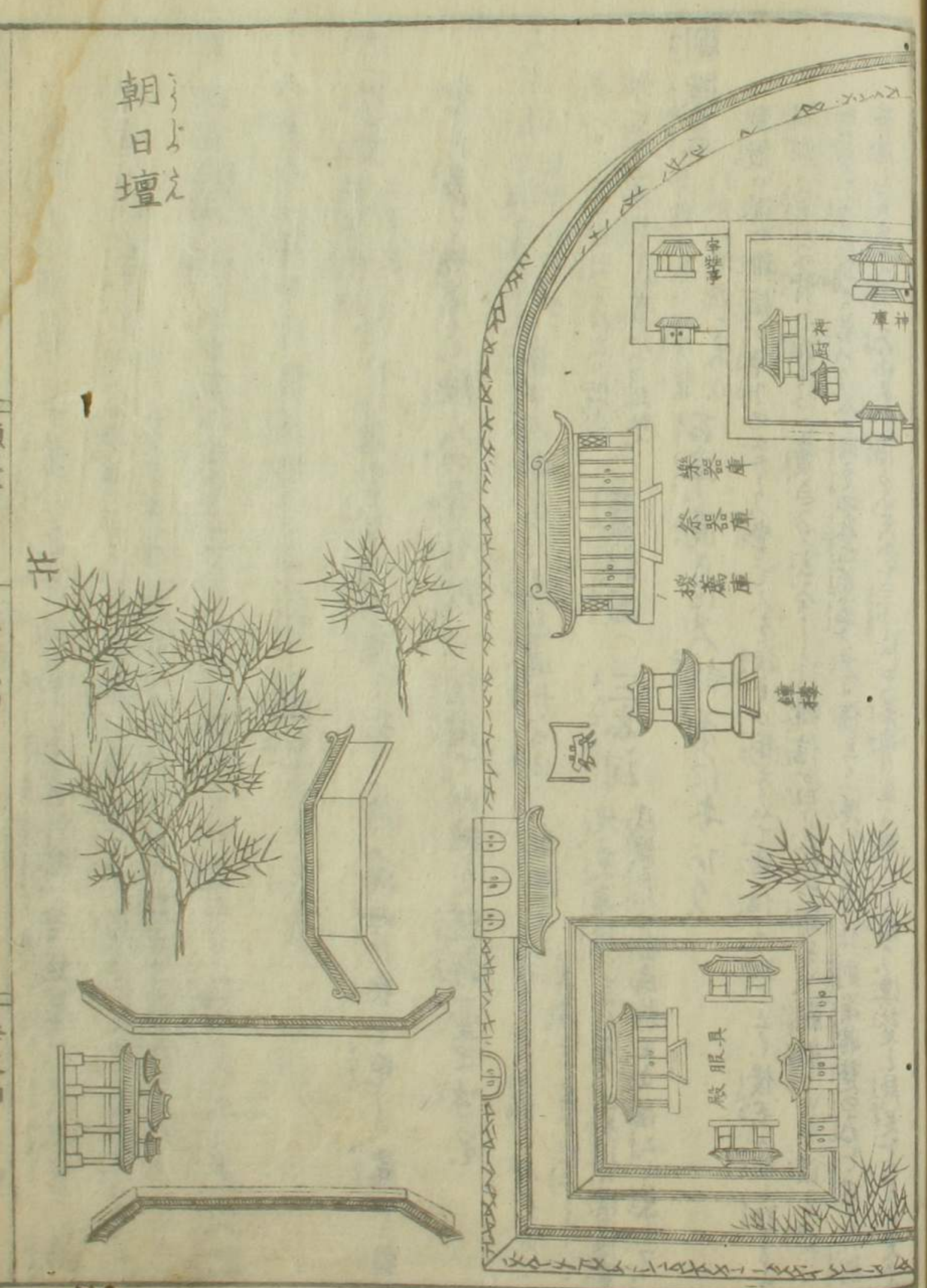


朝日壇

順天府

苑園郊垣

卷之四





○中營外東南守後署 ○祚本  
 殿 ○延壽寺 ○園光寺  
 縣門外  
 教里  
 宏谷寺  
 外城南の東に老玉花  
 年向去監草霜を建る石也  
 草公夜と呼ぶ

外城南の東に老玉花  
 年向去監草霜を建る石也  
 草公夜と呼ぶ  
 其の地を講とるの地とほし  
 元代此石公稱して飛放泊とる  
 廣て南苑と名く  
 其邊に民と住居  
 一子六百人を設る二十  
 將武を講とるの地とほし  
 元代此石公稱して飛放泊とる  
 廣て南苑と名く  
 其邊に民と住居  
 一子六百人を設る二十



幸公莊樹下宴

金臺  
 外城南の東に老玉花  
 年向去監草霜を建る石也  
 草公夜と呼ぶ

元代此石公稱して飛放泊とる  
 廣て南苑と名く  
 其邊に民と住居  
 一子六百人を設る二十

南苑  
 外城南の東に老玉花  
 年向去監草霜を建る石也  
 草公夜と呼ぶ

廣て南苑と名く  
 其邊に民と住居  
 一子六百人を設る二十

其邊に民と住居  
 一子六百人を設る二十

一子六百人を設る二十

將武を講とるの地とほし

元代此石公稱して飛放泊とる

廣て南苑と名く

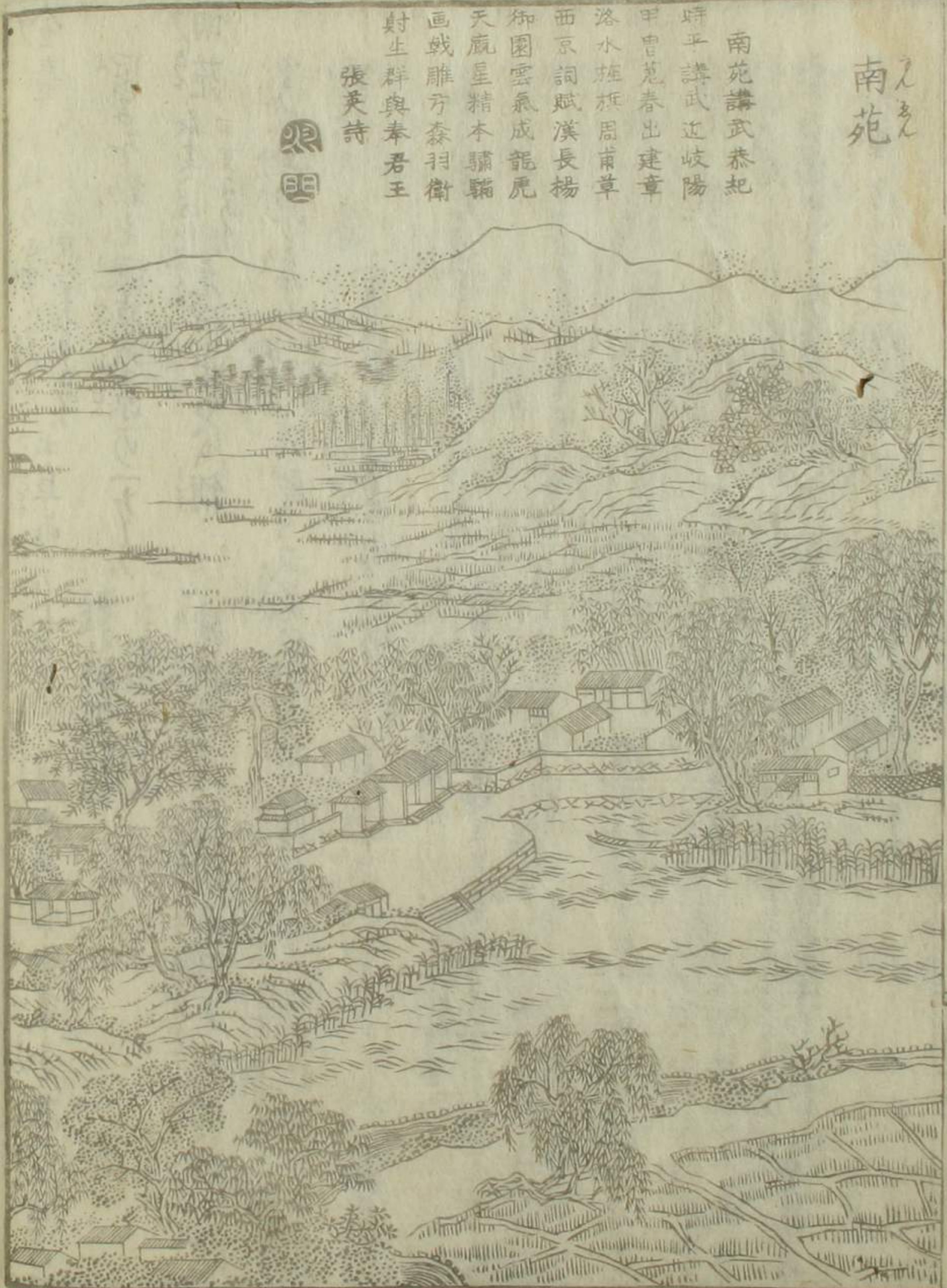
其邊に民と住居

一子六百人を設る二十

南苑

南苑講武恭紀  
 時平講武近岐陽  
 甲曹苑春出建章  
 洛水旌旆周甫草  
 西京詞賦漢長楊  
 御園雲氣成龍虎  
 天廡星精本驕驍  
 畫戟雕弓森羽衛  
 射生群與奉君王

張英詩



順天府

苑園郊坳

卷之四







皇二名成圖會  
皇帝大閱行粧之圖

皇帝



皇帝隨侍



親王



鎮國將軍



輔國將軍

奉恩將軍

領侍衛內大臣

侍衛總儀衛  
所屬官以上同



和碩額駙郡王額駙  
內大臣裏行之公  
侯伯散秩大臣以上同

縣主額駙

滿大學士  
公侯伯子男文武  
一品文二品以上同

三旗大臣  
文三品四品五品  
以上同

文六品七品八品  
九品同

八旗都統

八旗副都統



郡王

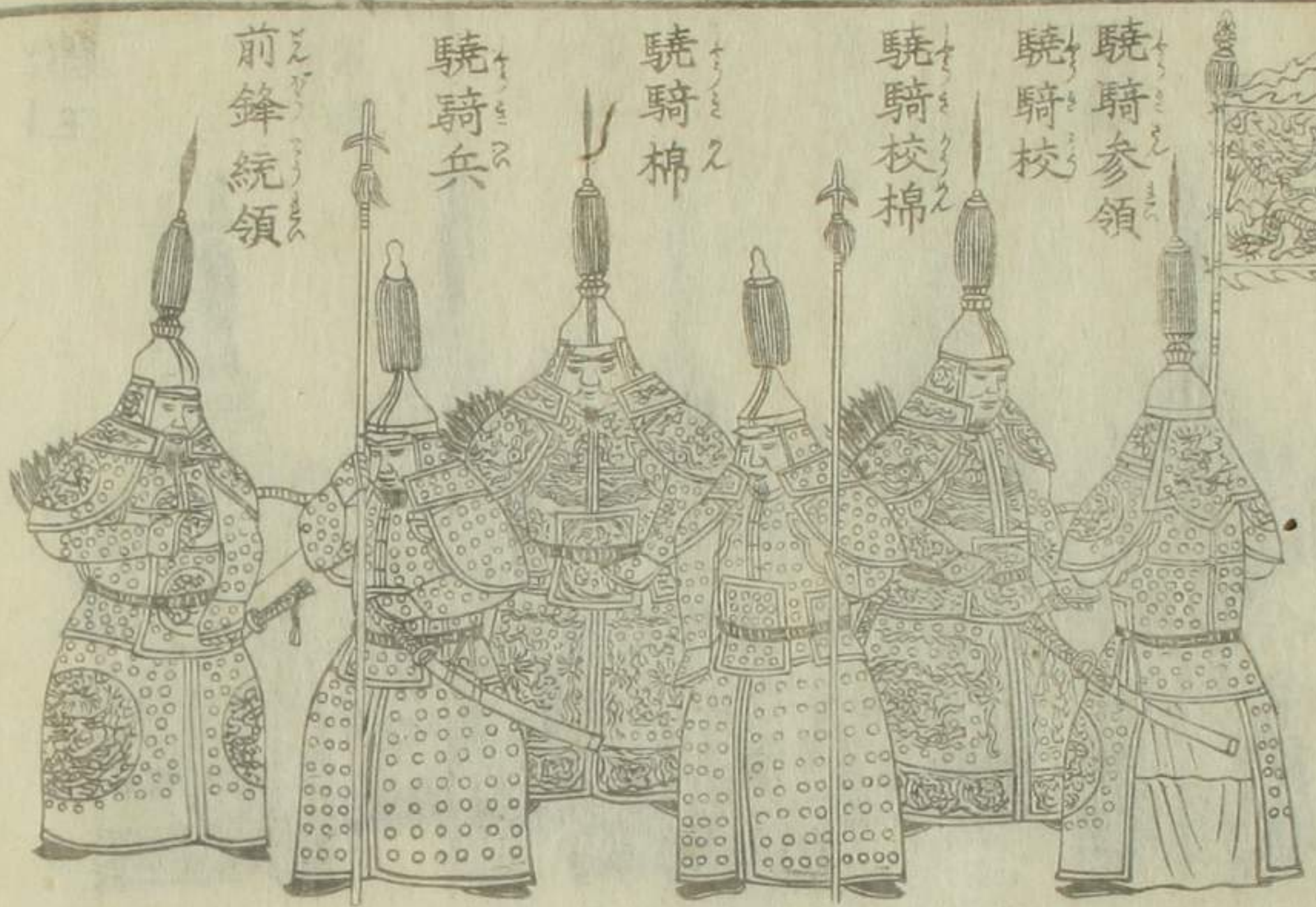
貝勒

貝子

鎮國公

輔國公





順天府

花園郊外

卷之四



○南宮外南二守備署 ○廣恩寺 ○九蓮慈蔭寺 ○祖氏園 ○奉氏

園 以上臨右安門外

廣寧門 外城の正門外には石道を築き、盧溝橋あり。雍正帝御製廣寧門

外石道の碑あり。又乾隆帝御修石道の碑あり。

天寧寺 廣寧門の外あり。此寺は高麗の僧天寧寺の遺蹟なり。高麗の僧天寧寺の遺蹟なり。高麗の僧天寧寺の遺蹟なり。

御書の額あり。額に「天寧寺」とあり。乾隆帝の御書あり。乾隆帝の御書あり。乾隆帝の御書あり。

柳巷村 廣寧門の外あり。乾隆帝の御書あり。乾隆帝の御書あり。乾隆帝の御書あり。

漫水 即乘靴馬徑山と云ふは此河の名と馬河と云ふ山と出で、漫水河と名く、

洗馬溝と合流し、洗馬溝は麻の西南に十里あり。漢の老成帝の御此河に馬を洗ひ、

此河の内に又橋あり。是を以て洗馬河と名く。此河の内に又橋あり。是を以て洗馬河と名く。

盧溝河 宛平縣と大興縣を接する所の河也。此河の内に又橋あり。是を以て洗馬河と名く。

急方りの急流の流は似たり。

盧溝橋 廣寧門の西南、盧溝と跨り、南北往來の大道なり。宣統二年九月、此橋を重修し、

長二百餘歩、左右石欄あり。橋の欄は、康熙帝御製の文を刻し、

分刻して、橋の欄に刻し、橋の欄に刻し、橋の欄に刻し、橋の欄に刻し、

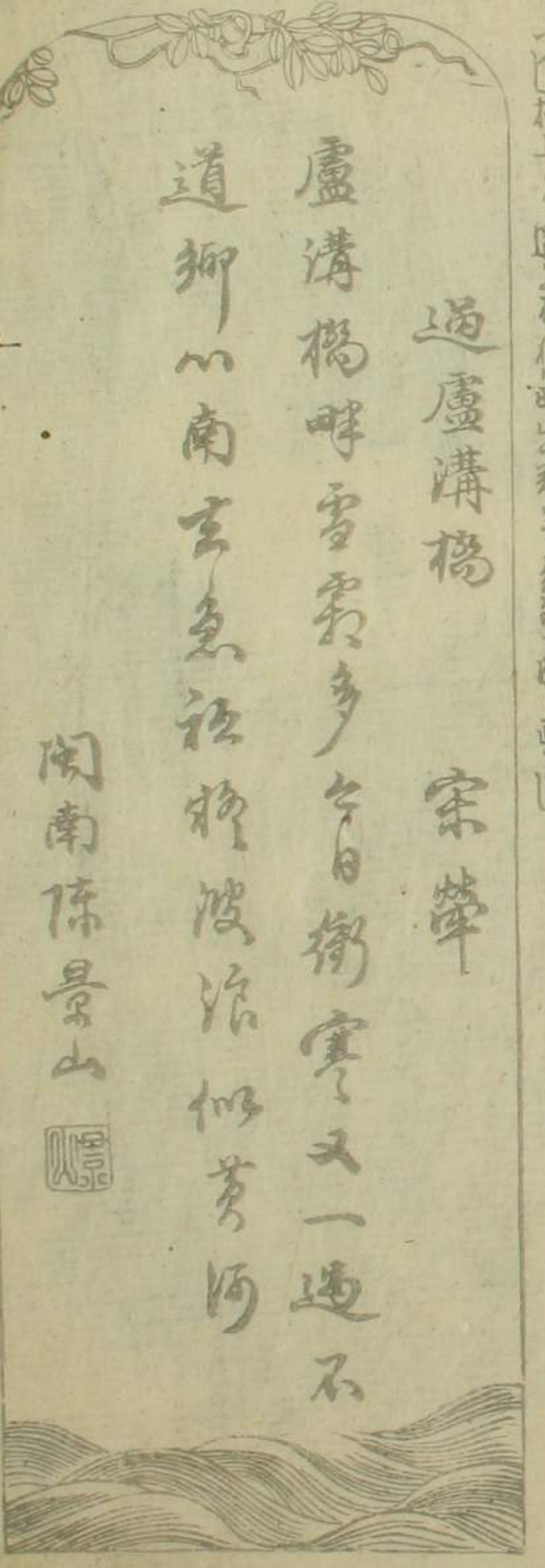
碑に刻し、又乾隆帝御書の盧溝曉月の字あり。詩あり。各碑に刻せり。

松あり。樹の陰に古樹あり。此松は、乾隆帝御製の文を刻し、

過盧溝橋 宋榮

盧溝橋畔雪霜多、白日衝寒又一過。不道柳川南去急、秋波浩似芳河。

陶南陳景山

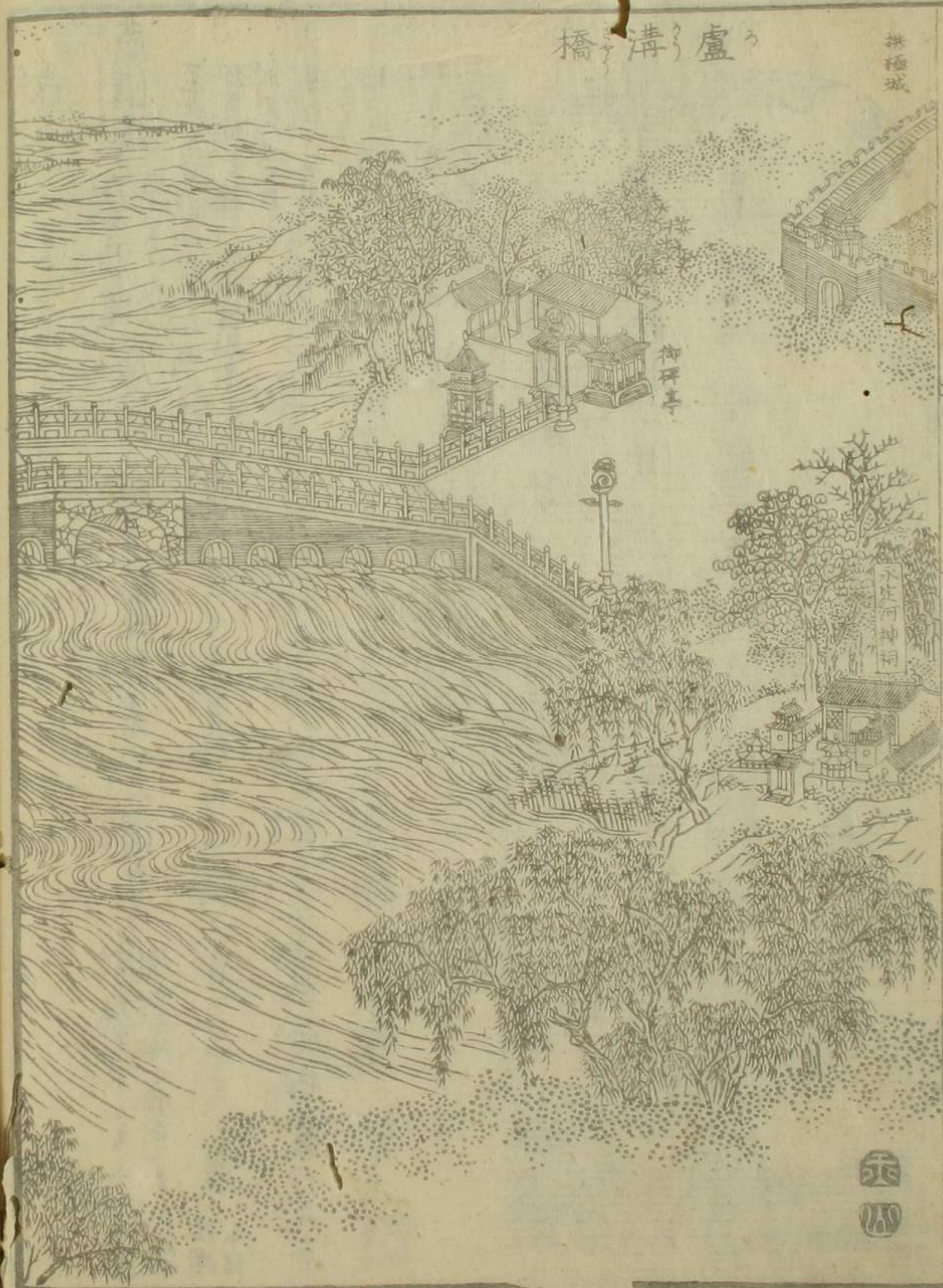




橋溝盧

拱極城

唐土名勝圖會



元四

廿八

金園寺

石山あり石山あり石山あり

塔あり遠眺するふよし

惠濟祠

石山あり

雍正年中又建らる以て永定河の神と祭らる御製あり

○大慈觀音寺 ○普海堂 ○後生寺 ○西院月如閣 ○元老保劉東堂

白雲觀

外院西の隅にあり

元の大極觀の故墟あり内は丘真人の塑像あり

五年正月十九日都下の人群集して祭となし是を燕九節とす康熙

乾隆兩皇帝御書乃 縣額亦御製あり

真人の像あり

今とて内と外とあり

長春真人姓丘名處機字元通長春に引以登州棲霞縣の溪都里の人なり

親舊と稱して崑崙山に登り居り丁未の春重陽金真兩化王真君表表とす

ありは申の年より出されて開けたり

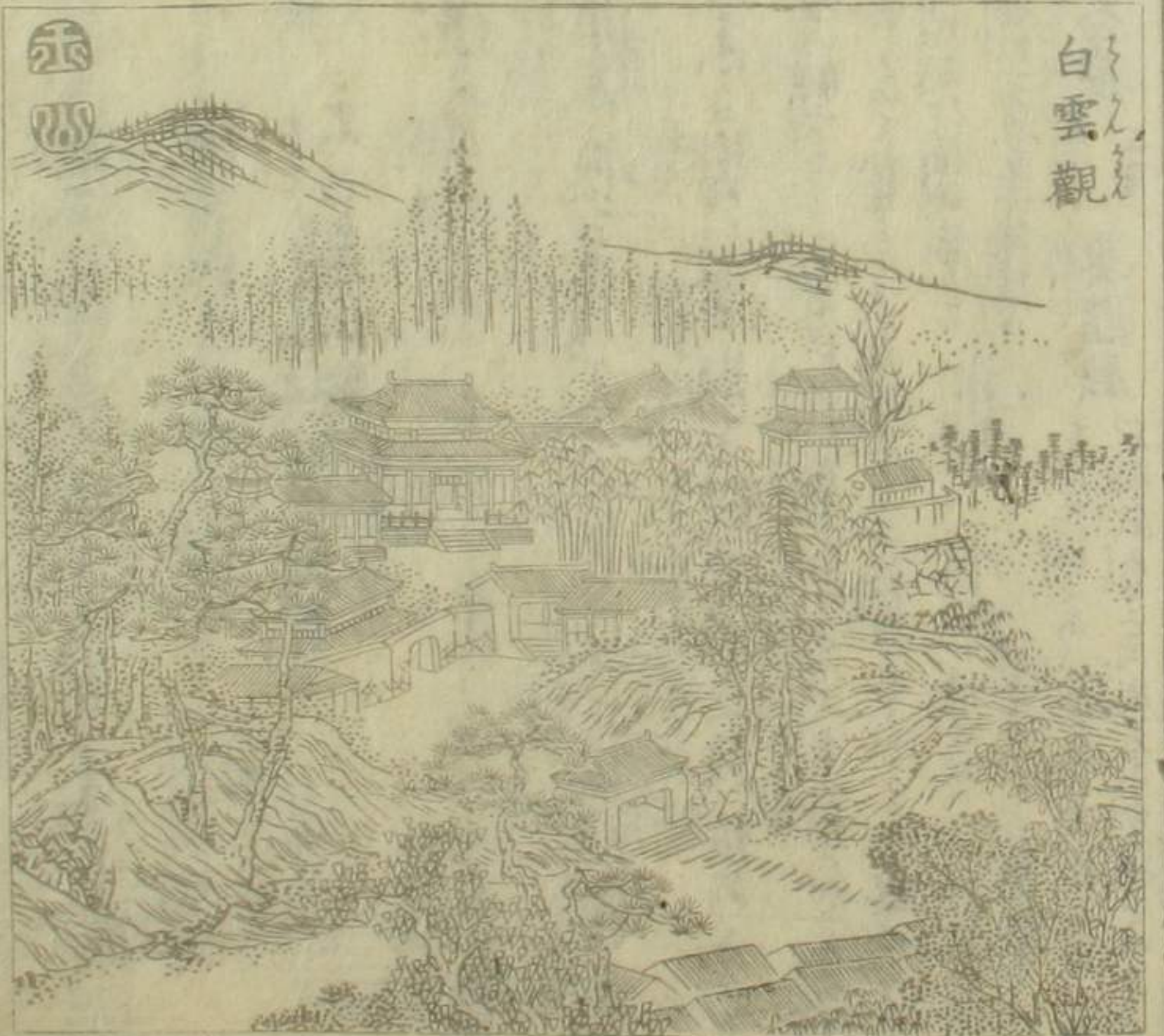
語を信し傳して石となれは處機が十八人といふをり

通微を掌せし人申八月を奉て燕京の白雲觀にたより丁未八月を奉て長春觀に及び其七月

仙蹟と傳て遊凡年八十なり至元己巳年贈号長春演道教真人と稱す

白雲觀

一云道教古人難多  
少通至務尔安寧  
若抱施文信國  
尚也擬若英符  
乃明朱國祀題白  
雲觀 漢高書



釣魚臺

白雲觀の西三里河の西にあり

御書釣魚臺の三字がらひに御製あり

一傍志云釣魚臺の西に園村あり

唐一各册圖會

順天府

苑園郊垣

卷之四

興煙釣免臺詩 金主鑿興幾度來釣臺高欲比金臺可憐臺下王飛伯不及鱸魚得查鯉  
 玉淵潭 府の西十里 元の丁氏乃人の故池なり池の隈に桃は多く柳樹を植て景氣蕭  
 爽より加之沙禽水鳥翔り集り是より遊賞佳處の不一なり

宗壽寺 西條門外白雲觀の西 門外に鐵獅二あり鎮宅獅子の名と稱す  
 ○國聖廟 府の西高 縣にあり ○三義廟 府の西高 縣にあり ○大乙集仙觀 府の西高 縣にあり

夕月壇 京洛の西南にあり 每歲秋分の日此壇に月出と仰へ秋明を告あり以て小斗五星  
 二十八宿周天の星辰と記し凡西辰未戌の年の天子自ら諸祀終ひ其の余の  
 官と降してあるを壇上の位より東に嚮ひ黃版と設夜明之神位の空と

白書せり 祀後ハ編版金書なり 壇の制がうてまはらひに版とはし方にはるるに版は面を金  
 九十に云く檀の正高は三門六柱西南小高門二柱柱及び欄圍皆石 水滸 水厨 壇の南門の外にあり

宰牲亭 兵亭 一 祭器庫 樂器庫 具服殿 東の隅にあり正殿三間南にあり  
 右祀殿各二間欄を小宮欄とせり

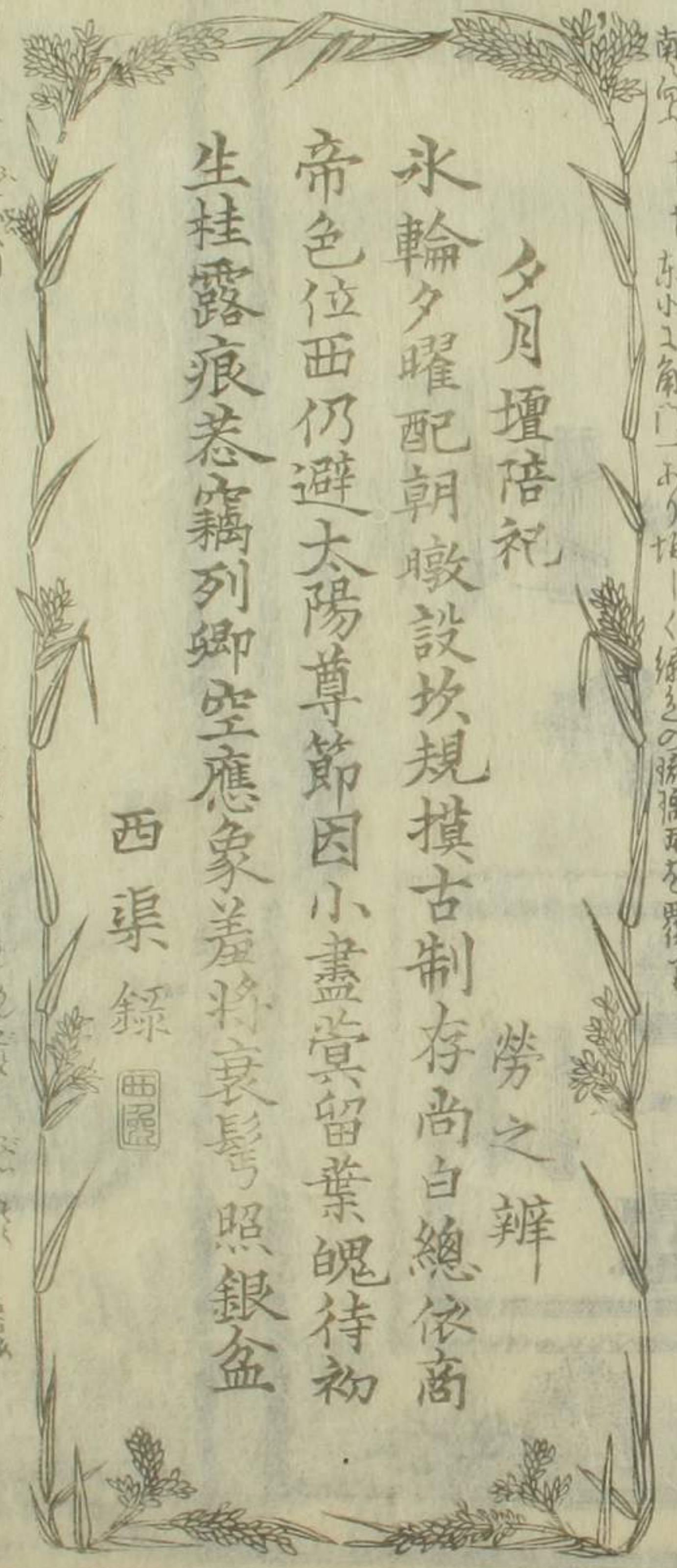
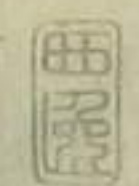
宮門三 壇垣 周三百三十八尺八寸東小各門一階三門あり小門の  
 南より 壇垣 東小各門一あり壇一く條との流橋瓦を覆て

夕月壇陪祀

勞之辨

永輪夕曜配朝暎設坎規摸古制存尚白總依商  
 帝色位西仍避太陽尊節因小盡冀留葉魄待初  
 生挂露痕若竊列卿空應象羞將衰髻照銀盆

西渠錄

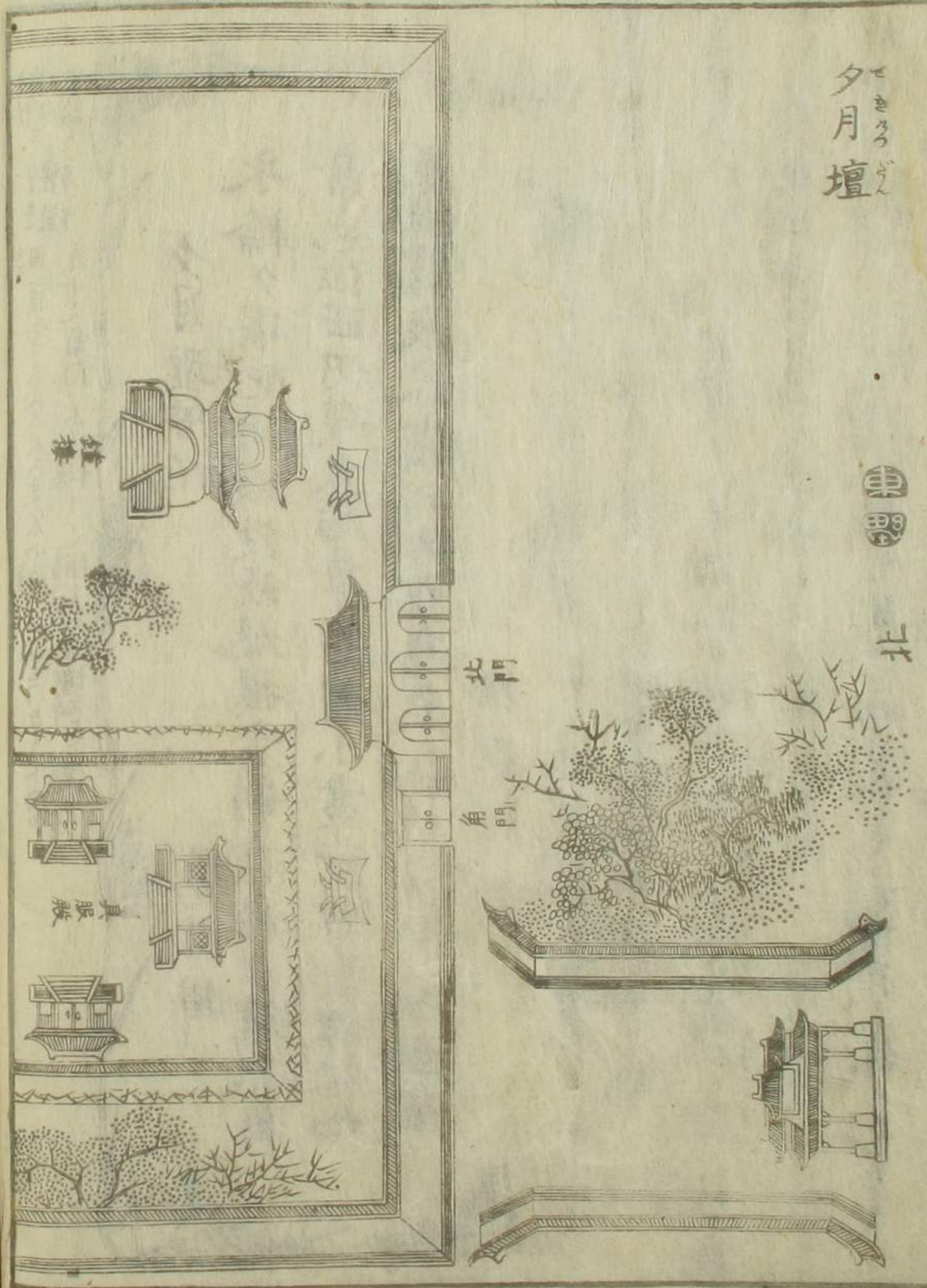
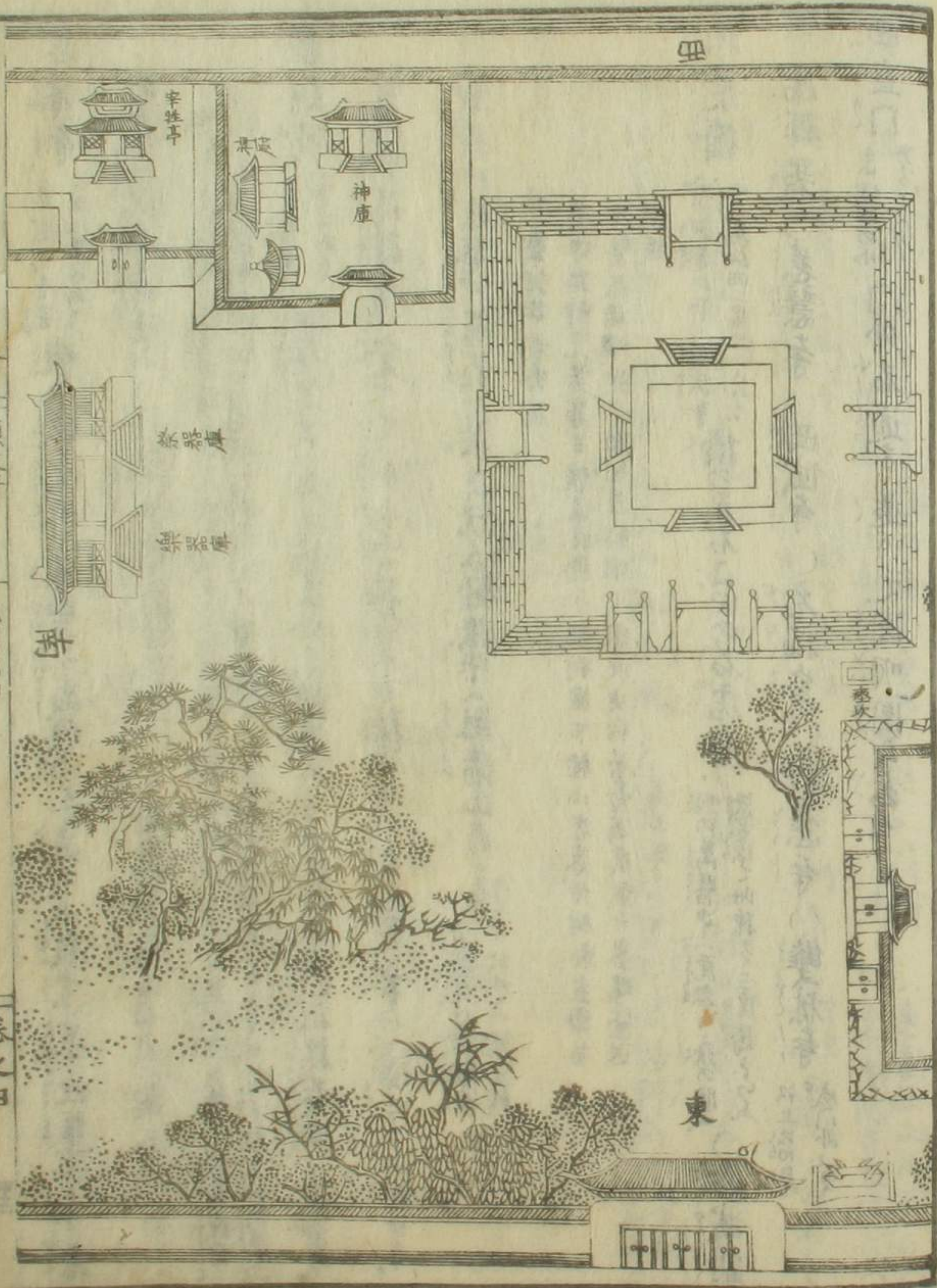


寶塔寺 阜成門の 西に塔あり高さ二丈計五層六面面毎に佛像と刻り

慈恩院 阜成門の西にあり 乾隆二十八年潭柘の僧募緣してこれを建以て老人幼稚  
 の廢疾難病りる者を收養する乃不とせり

釋樂堂 阜成門外二里に慈慧寺あり 都て宮女と此に募りて不謂宮人斜に是なり  
 其後の方二里許あり





慈壽寺 阜成門を去る 明の神宗皇帝慈聖太后の御小建する殿宇甚壯麗なり。慈

の方より永安寺塔あり。十三級あり。雲漢を極するは。乾隆帝御書の額あり。

摩訶菴 慈壽寺の 此菴甚大なり。此より西に流澤あり。特甚。松栢菴中よりあり。

に瀾高樓あり。登りて一帯の山を蒼翠と稱ひ。河の流るる處に常て備せり。小伽藍。

萬曆の後菴中杏花と梅あり。又餘株此に遊者山あり。天啓中は樹槐也。

摩訶菴看杏花 青郊路轉見芳菲日暖園林燕子飛別圃乍經山杏落僧厨新煮藥苗肥繁花舞蝶迎人面細草輕烟上客衣更向層臺高處望千峯螺黛送春暉

高士奇

神虎橋 摩訶菴の西に雙林寺あり。橋の左右に石虎あり。明の萬曆中一度忽ち後の國より西城西

指揮署○慈慧寺○西城寺○元福宮○弘應寺○雙林寺 以上皆阜成門外あり

西直門 京城西の 門外石道を造りて。因明園あり。

高梁橋 西直門外を跨りてあり。高梁河より流るる也。南に長源永澤あり。北に長源永澤あり。石道の中二坊あり。少を觀瀾園あり。此の西

樂善園 高梁橋の西にあり。内は佛堂あり。堂の西門あり。少や向い内は小溪と稱せ。南を

穿堂とも云ふ。向いを意外味と云ふ。石徑と南を橋して。於此賞心と云ふ。内を

合法齋と云ふ。亦の瀟湘と稱ひ。北は粉花圃と云ふ。南は雲霞波動軒あり。此の園中

亭室樓あり。松あり。或は村舎あり。回廊連つて

後樂寺 高梁橋の西にあり。門外は大柳樹三株あり。高きり天と拂ひ。長枝疏と云ふ。地を掃空。明の成化中寺内の牡丹あり。春日恒は遊講寺に瀟湘と云ふ。雨花あり。西は通衢あり。若は老梅に樹あり。巨樹二これあり。少や向い内は小溪と稱せ。南を

大真覺寺 後樂寺の西にあり。明の永樂の時西域の印土の僧版船運来りて。其の僧佛五と真覺

詔して大國師と封し。此寺を建若し。其の寺に大石を備せり。其の寺に大石を備せり。其の寺に大石を備せり。

白石橋 西直門の西にあり。一里許あり。明の萬曆馬が白石を取たり。臺榭皆本にして。附郭園其の第一也。

廣源圃 西夏門の西七里あり 清朝類は此を修造し、舟を昆明湖に入し、補橋を建し、

清漪園を築しむ。

萬壽寺 廣源圃の西、殿宇を以て廣壽寺と名する。元の方を鐘樓あり、華嚴經を懸けり。

後の乾隆十六年、此寺を燬す。乾隆十六年、此寺を燬す。乾隆十六年、此寺を燬す。

寺は後に御製の碑、清漢蒙を西番に記すあり。

萬壽街 萬壽寺の西の端、園門を以て長街あり、是と名する。街ともいふ。

暢春園 南門外にあり、暢春園と通じ、土人蘇州街ともいふ。此園圓明園の南にあり、花園とも稱し、官門の

内は小河と環りし中、九種三季殿あり、後三の官門を其中と、春暉堂ともいふ。

後、番花門あり、門内の殿を壽萱春永と名し、後の坐殿と嘉慶と号し、西南門の内

は積芳亭あり、正堂と雲涯館と名す。館の東南に松とあり、山と名し、上は蒼松亭あり、下に

選餘軒あり、内は澹寧居と名す、其の即康熙帝御の遺宮也。後、河あり、橋と跨り、南は方

王洞あり、令流と名し、門あり、其内を瑞景軒と名し、松香山翠と名し、後あり、の延爽

樓あり、後、鳥を飛、躍、車、南、觀、蓮、所、九、式、古、齋、齋、の、後、綺、榭、と、名、有、餘、慈、林、亭、と、名、す。

あり、恩、愍、寺、の、庭、に、帝、の、御、容、と、奉、一、圓、帝、廟、は、康熙帝御書あり、乾隆成展の九月、園内、西門

内、橋、上、に、帝、廟、御、容、と、奉、一、圓、帝、廟、は、康熙帝御書あり、乾隆成展の九月、園内、西門

二十丈と名し、十九丈と名し、即御製、集、鳳、軒、九、季、の、詩、を、記、す、勅、で、り、集、鳳、軒、の、内、に、有、り、す。

大西門、觀、御、射、林、紀、  
乾隆初、日照西山、百尺樓、開、翠、翠、間、御、苑、經、塞、飲、草、淺、秋、風、講、武、怡、農、間、虎、熊、的、畫、  
君、臣、講、鴻、鷺、輝、分、左、右、班、何、幸、此、時、叨、侍、從、大、弓、親、觀、至、華、續、  
右、齊、召、南

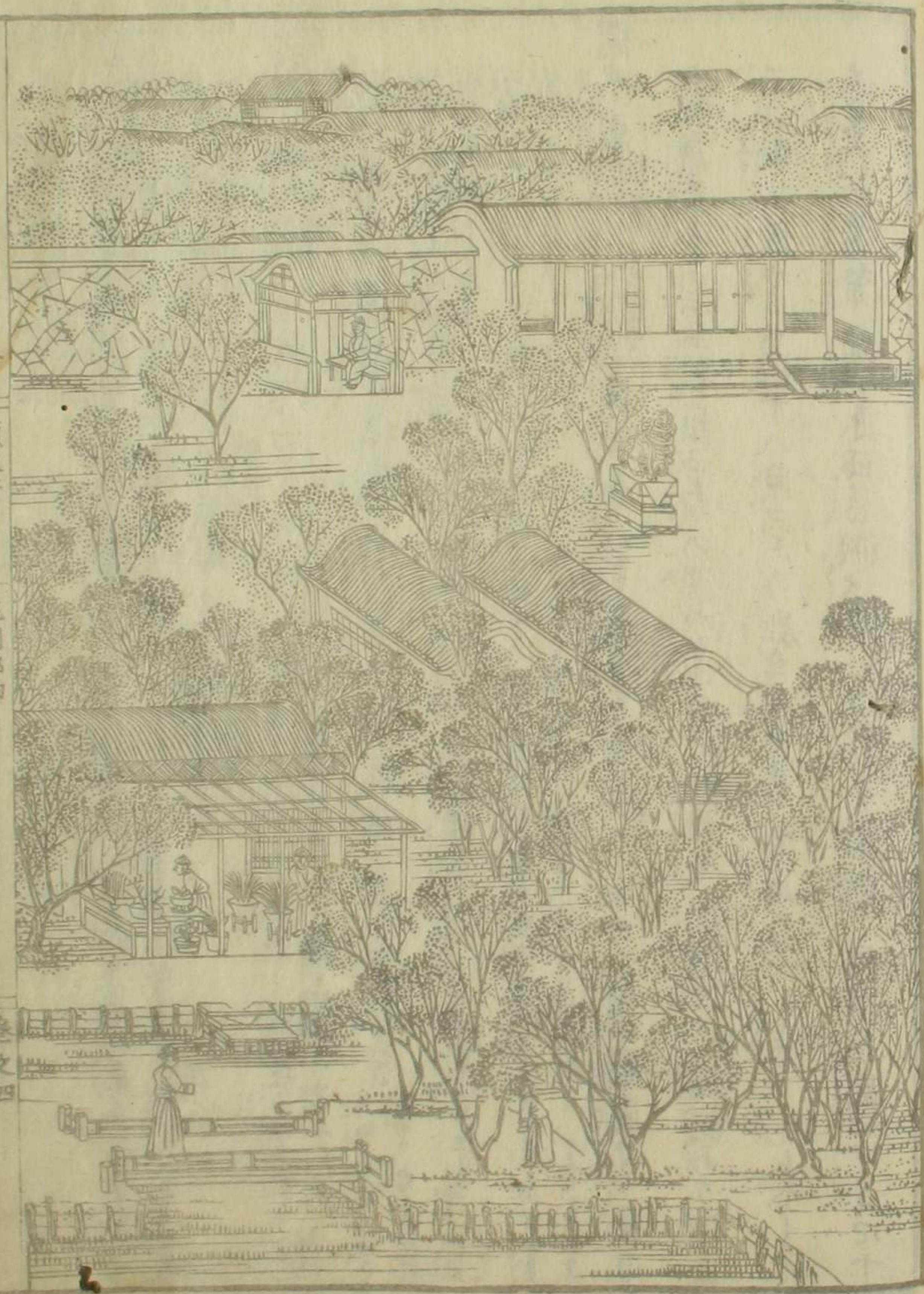
賜遊暢春園恭記 蔡升元

高齋凌碧漢、甲觀俯清漪、靜檻無遺照、澄淵豈

易窺、燕、間、仍、典、籍、苑、園、不、羨、茂、茂、儉、德、尤、堪、紀、規

模百世師

五景 品



暢春苑守備署 海濱

清華園 明の季威曉の別業の址方、園中亭と發ては推り二室と推せり、唯の蕭方庭の手書あり、園中牡丹あり、奇品異種地より多きものなり、其中二種、懶懶と名するものあり、其の二種、同花の附、これを花海と稱し、都

○洪雅園 ○夕園 別業あり

泉宗廟 丹徒關の南、乾隆三十二年、建、上は真武と祀り、下は龍王龍母の像を樹り、乾

隆帝御書の孫額希、御製の詩又碑あり、○永安寺 ○聖化寺 乾

隆帝の御書孫額あり、永安寺 ○永通寺 南海渡

○龍翔寺 馬家

○覺生寺 曹家

圓明園 暢春園をより、更、後、の帝、は、く、く、の、賜、園、方、園、の

名、康熙帝の宸翰、雍正帝の圓明園の記、乾隆帝因圓明園、後記あり、俱、又

石、勅、以、園、中、門、十八、間、三、あり、殿、亭、堂、室、ハ、稱、以、凡、園、の、中、は、十

大宮門の、稱、輦、道、の、東、西、皆、湖、水、は、して、これ、を、名、湖、と、稱、以、凡、園、の、中、は、十

景あり、各御製の小序、希、詩あり、○正大光明、勤政親賢、九州法皇、樓月同雲、天

然、圖、畫、○頤和書院、○慈寧宮、○上下天光、○杏林春館、○阻、○茹、○古、○今、○長、○春、○仙、○萬、○天

安、○武、○春、○色、○山、○高、○水、○長、○月、○池、○雲、○居、○鴻、○卷、○永、○祐、○景、○芳、○書、○院、○日、○天、○林、○宇、○澹、○泊、○寧、○林、○映、○水、○園、○香

○水、○大、○明、○瑟、○瀛、○溟、○樂、○處、○多、○稼、○如、○雲、○魚、○躍、○鳶、○飛、○北、○遠、○山、○村、○西、○岑、○秀、○秀、○色、○日、○宣、○書、○屋、○方、○壺、○勝、○景

○澤、○身、○浴、○德、○平、○湖、○秋、○月、○蓬、○島、○瑤、○臺、○樓、○秀、○山、○房、○別、○有、○旧、○天、○交、○鏡、○鳴、○琴、○酒、○虛、○朗、○鏡、○廓、○然、○大

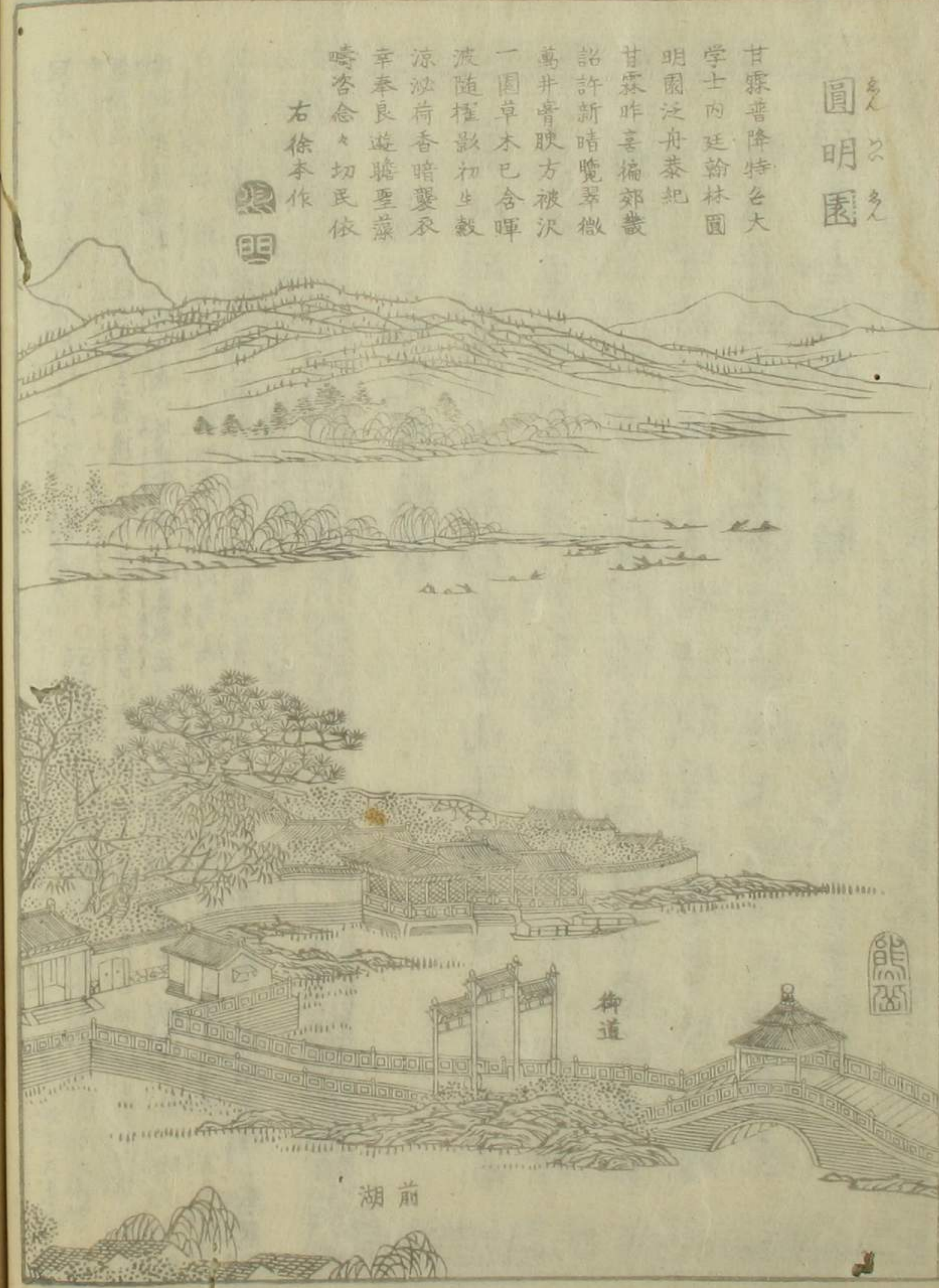
公、○坐、○石、○臨、○流、○鞠、○院、○風、○荷、○洞、○天、○深、○處、○以、○上、○園、○明、○園、○に、○十、○景、○と、○稱、以、

御製正大光明殿詩  
勝地同靈囿遺規暢春尚年成不日奕代永居  
辰義府遊羅璧思波水瀉銀草青思示儉山靜  
體依仁只可方衢室何須道玉津經營懲峻宇出  
入引賢臣洞達心常詒清涼境絕塵常移雲館  
蹕未費地官縉生意榮芳樹天機躍錦鱗宜堂  
彌塵念俯仰惕心頻 米菴河三夾書

圓明園

甘霖普降特名大  
 學士內廷翰林圖  
 明園泛舟泰紀  
 甘露昨喜備郊畿  
 詔許新晴覽翠微  
 萬井膏腴方被沃  
 一園草木已含暉  
 波隨權影初生數  
 涼沁荷香暗襲衣  
 幸奉良遊瞻聖藻  
 嗚咨念切民依

右徐本作  
  

湖前

御道

能

四十六

順天府

花園郊坳

卷之四



正大光明殿

長春園



元

順天府

花園郊坳

卷之四



長春園 舊園明園の東北の隙地なりて水磨村と号し木ケル。因明園中の長春仙館より殿を遷

懐堂とし、後、衆樂亭、其後、河の曲、又、殿宇あり、雲窓水態、く、南、

長橋を架し、西、合、復、堂、乃、後、淳、化、軒、其、東、西、の、廡、淳、化、閣、帖、の

石刻と嵌、其、後、を、葛、真、齋、と、名、園中堂あり、其、北、に、雲、窓、水、態、あり、 舊園、即、長、春、園、の、正、殿、の

西、の、あり、舊園の八景あり。朗、洞、齋、湛、系、樓、菱、香、軒、香、蓮、亭、標、勝、亭、別、有、天、韻、天、琴、香、室、

如、園 舊園の西南あり、 圓、明、園、身、後、署 其、甲、也、の、西、

昆明湖 京城の西、湖、也、 玉、泉、龍、泉、其、餘、の、諸、泉、集、り、為、て、湖、水、と、名、ま、り、不、謂、燕、京

の、西、湖、と、ん、か、り、瓊、山、玉、泉、山、を、西、山、の、匯、と、し、其、燒、十、里、許、荷、蒲、菱、芡

繁、く、生、ひ、を、雁、鷺、鴨、雁、以、遊、り、小、舟、楫、に、し、て、涼、と、迎、へ、白、雪、と、踏、む、詩、を

吟、し、春、の、西、山、の、桃、花、を、尋、ぶ、秋、凡、の、蘆、花、と、動、く、を、東、涯、の、さ、ら、と、せ、り、

乾、隆、癸、亥、の、年、命、し、て、湖、水、の、危、と、安、く、し、岸、と、用、き、て、其、周、に、十、里、又、及

べ、且、西、山、の、泉、派、を、掃、く、池、勢、又、ち、く、ひ、收、身、し、て、湖、中、に、流、注、せ、り、即、湖

名、を、昆、明、と、賜、ふ、堤、上、に、廓、如、亭、あり、亭、の、北、に、崑、崙、石、あり、御、製、の、詩

と、勒、せ、り、側、に、洞、を、乾、し、て、牛、を、造、り、其、背、の、こ、こ、に、御、製、令、年、の、銘、と、鐫

り、其、外、萬、壽、山、崑、明、湖、の、記、と、石、に、勒、以、音、乾、隆、帝、の、御、製、あり、湖、派、集、

園、神、寺、と、名、り、元、の、回、晴、甚、愛、し、右、湖、水、池、派、と、名、り、三、里、功、德、寺、あり、洪、佑、其、東、に、折、を、幽、林、其、南、に、

雲、霧、と、名、り、し、し、て、池、に、注、し、水、を、引、り、泉、山、に、注、し、て、池、に、注、し、て、飲、み、水、と、名、り、池、の、こ、こ、に、亭、あり、

池、の、北、に、佛、刹、と、名、り、種、多、佛、の、名、と、名、り、二、里、に、華、嚴、寺、あり、寺、内、に、三、の、洞、あり、南、の、洞、を

功、德、寺、の、元、代、大、業、天、護、聖、寺、と、名、り、天、歷、二、年、板、菴、禪、師、創、建、せ、り、明、代、名、と、功、德

寺、と、改、め、規、劃、表、き、り、て、矩、黍、方、り、乾、隆、の、間、を、修、り、て、御、書、額、御、製、の、碑、を

刻、板、菴、禪、師、本、願、あり、終、極、で、用、と、辨、し、り、し、り、球、の、大、き、キ、の、こ、こ、に、殿、と、名、り、

地、に、入、り、て、叩、首、の、禮、を、う、け、り、か、り、玉、佛、の、門、に、入、り、其、内、に、佛、あり、 乾、隆、十、六、年、名、と、萬、壽、山、と、賜、ふ、山、の、南、に、若、を、も、し、り、湖

壟、山 京城の西、三、里、玉、泉、の、南、に、在、り、 乾、隆、十、六、年、名、と、萬、壽、山、と、賜、ふ、山、の、南、に、若、を、も、し、り、湖

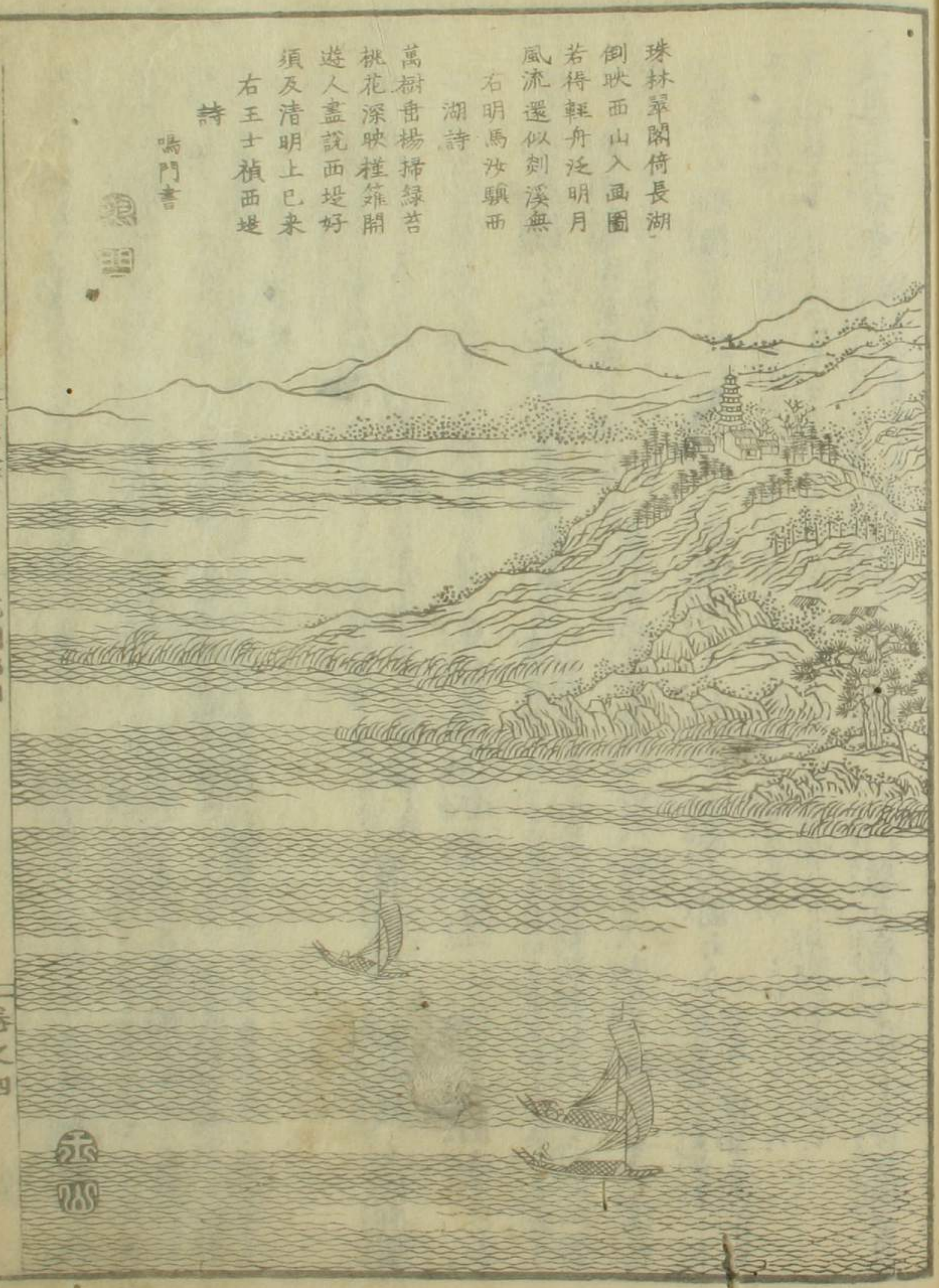
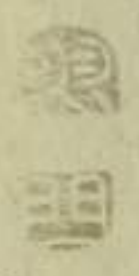


昆明湖



珠林翠閣倚長湖  
倒映西山入畫圖  
若得輕舟泛明月  
風流還似劍溪無  
右明馬沙驥西  
湖詩  
萬樹垂楊掃綠苔  
桃花深映槿籬開  
遊人盡說西堤好  
須及清明上巳來  
右王士禎西堤  
詩

鳴門書



順天府

花園郊湖

卷之四



の元若あり一雅人あり曰く是が爾仙室なりと此邊の人家皆楷榭梨と板  
 の下は備へ其地景は南の風色と相似たり。此山と云ふ石の瘞と瘞得たりと奉  
 徳の彫刻あり中は物の教十種あり若夫んく  
 軟の甚しく中物と悉くして其石瘞は山の西邊に長く瘞をこして曰く石瘞從宣帝聖と瘞  
 のは此石瘞と云何因へけしや石と云ふ瘞も有り瘞の物か瘞は瘞夫と云ふ朱尊尊瘞山詩石瘞久  
 已徙青山仍舊名去都  
 無一合已覺旅塵清

清漪園

教諭山の極園明園の西三里許あり見附御池あり東より西に長廊あり  
 宮門の内と勤政殿と御製

乃坐石菴萬壽山昆明湖の記あり殿の後怡春堂と逢し西と玉蘭堂と云  
 水を宜春館と云其西と樂壽堂あり  
堂の後折て雲の方の池と池の水を樂安和と云西に長廊あり  
 て石大亭と陸に西に養性軒あり亭あり後石菴云

帝の御願なり又怡春堂の後松園より水の方玉蘭山園あり  
此時堂玉蘭軒  
 聖樹の澹碧齋水榭

大慈恩延壽寺

乾隆十年奉命して門殿五層と建らしは御書の

類御製の詩碑あり

西に羅漢堂あり杭州の法華寺とあり元の四分の式と倣て建す門二  
 甲乙の十道を分け阿羅五百多の松樹あり階御書の類を築なり

元更相邪律楚材之墓

乾隆十年奉命して祠宇と建らし

御製の詩碑と揚人

墓の元の河を流すなり

畫眉山

畫眉山乃則金山なり湖と云ふなり

龍津廟

此は雨澤と禱る其靈更應あり

乾隆帝御製の詩あり各石と勒せり

心殿

亭

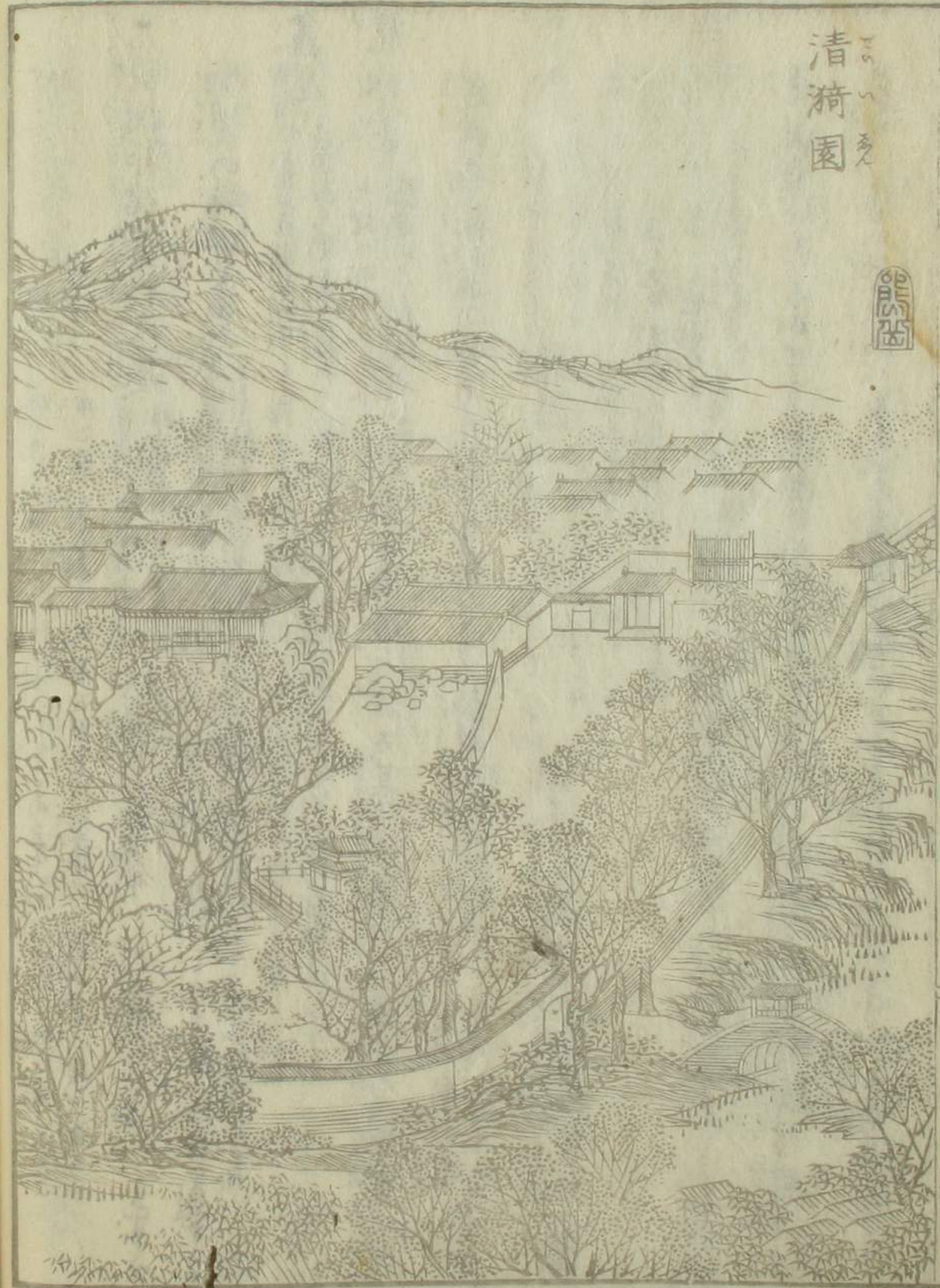
御碑亭のありあり水山

至泉山

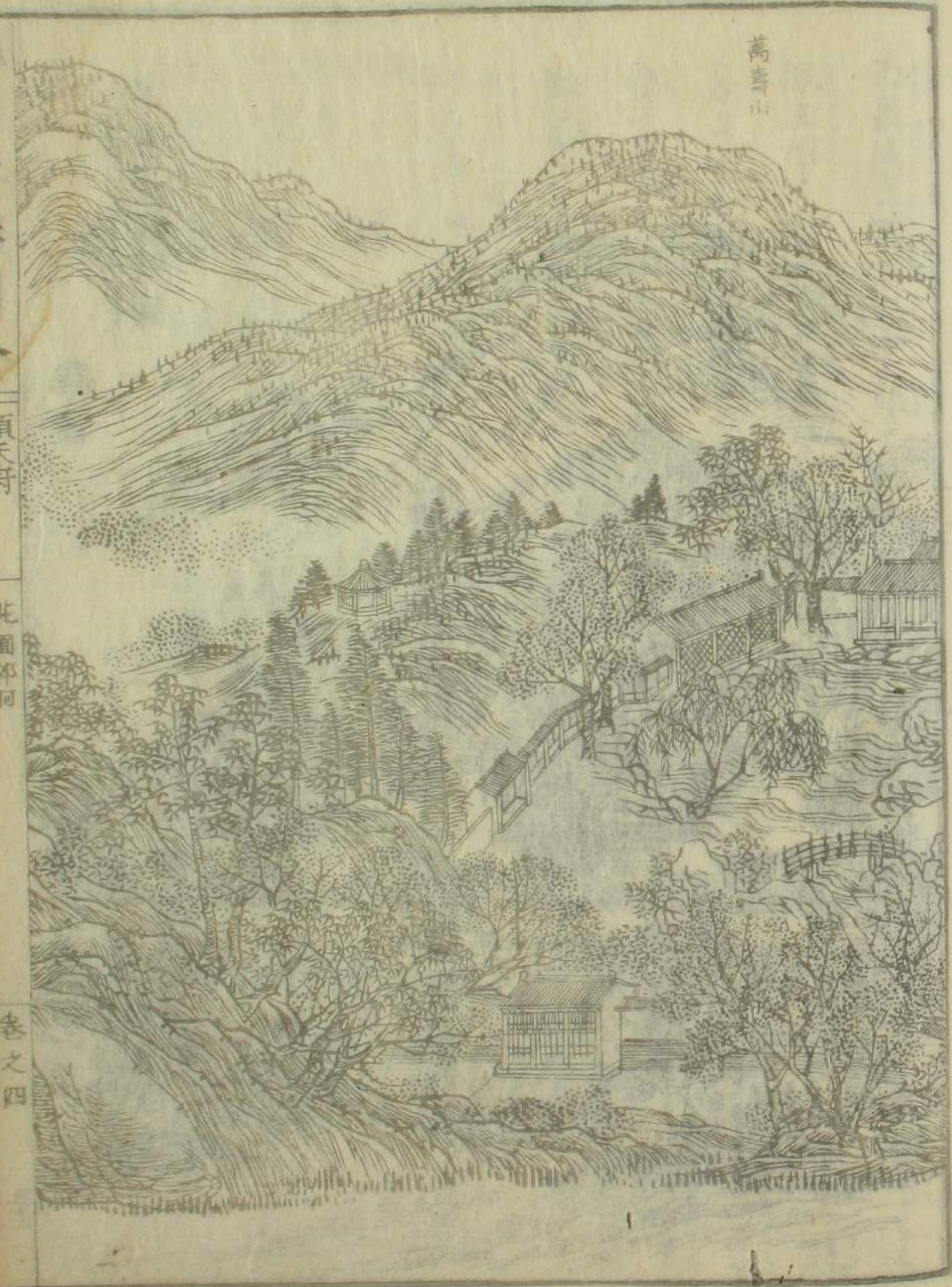
金の章小帝乃幼宮其殿の故址は此山味あり元明以

来遊幸の石とみせり康熙の間修葺せらるる即聖祖宣帝靜明園  
 と名け給へ至泉山の其泉水の清き小亭て是と名けし山の東石薄乃同なり

清漪園



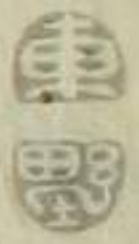
萬壽山



順天府

花園郊外

黑龍潭龍神廟



玉泉涌出其石頭と繋て橋の頭と如く。泉の此橋より噴出せり其鳴こと  
 佩玉のごく其色は素体のごとし味は極て甘く。瀦て池と爲し廣きり三丈許  
 東より石橋を跨り水橋下を流る昆明湖に入相傳へ今皇の景宗  
 嘗て暑と此に避し燕京の景の二つを名けて玉泉の垂敷と云乾隆帝  
 御書乃玉泉路突乃口と稱す。玉泉山の文松を移し或は松の幹のこゝに  
 飲ころふ湯くとあり。わつひの毛と噴雪泉と名

游玉泉

王暉

峯頭乱石關 崖穿水底浮光浸碧  
 霞絕似蘓門 山下踏惜無修竹與  
 梅花

七十七翁林鹿共谷本情

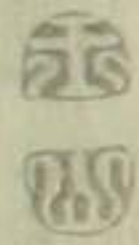


玉泉山



玉泉道中  
晚來聯騎踏晴沙  
風景蒼茫一望遐  
幾處白雲前代寺  
數村流水野人家  
鶯啼別墅春猶在  
馬到西山日未斜  
回首不知歸路遠  
九重宮殿隔烟霞

明劉大夏詩



順天府

苑園郊坵

龍王廟 玉泉山の 廟に泉上の湧水より。流の廣さ數丈涌泉あり。年と裂  
 びて故に名けて裂帛湖と云ふ。山を石間と違ふ。或は雪の融てく成り  
 珠と碎くは似たり。古ゆきげく澄上より覆ひ幽秀たる風を筆端のひく處  
 あり。唐の三回あるに其後清の瓦を穿りし。門は丹桂樓堅  
 固なり。石を穿りし。門は丹桂樓堅

裂帛湖

王士禎

裂帛湖光碧玉環人家終日映  
 漲没分明一幅蔡侯紙寫出  
 湖南千萬山 河世寧



靜明園

玉泉山のりたあり。即花園の二ヶ所。

康熙十九年と建て。澄心園と名三十一年来今の名に改む。

康熙維心の向ふ此は園武の式と似ひゆ。今其の(一) 靜明園十六景  
 あり。第一と廓然大公の(一) 園の心殿なり。第二芙蓉晴照 廓然大公の(一) 後  
 第三玉泉 玉泉山の南あり。後又北あり。第四  
 踏突 玉泉山天下第一の池あり。 第五竹籬山房 其南に真武廟あり。第六  
 五聖固線繪 風希高の南あり。 第七溪田課耕 耕田の  
 西あり。第八育宮あり。第九 第九未香雲徑 後山の  
 天齊大生に在る。第十 第十使雪琴音 招鶴庵の  
 第十一玉峯塔影 塔影の南あり。 第十二風管悠雅 會仙堂の南あり。  
 第十三鏡影涵虛 鏡影の南あり。 第十四裂帛湖光 湖光の南あり。  
 第十五羅漢洞 羅漢洞の南あり。 第十六翠雲嘉蔭 翠雲の南あり。  
 第十七雲外種豆 種豆の南あり。 第十八翠雲嘉蔭 翠雲の南あり。

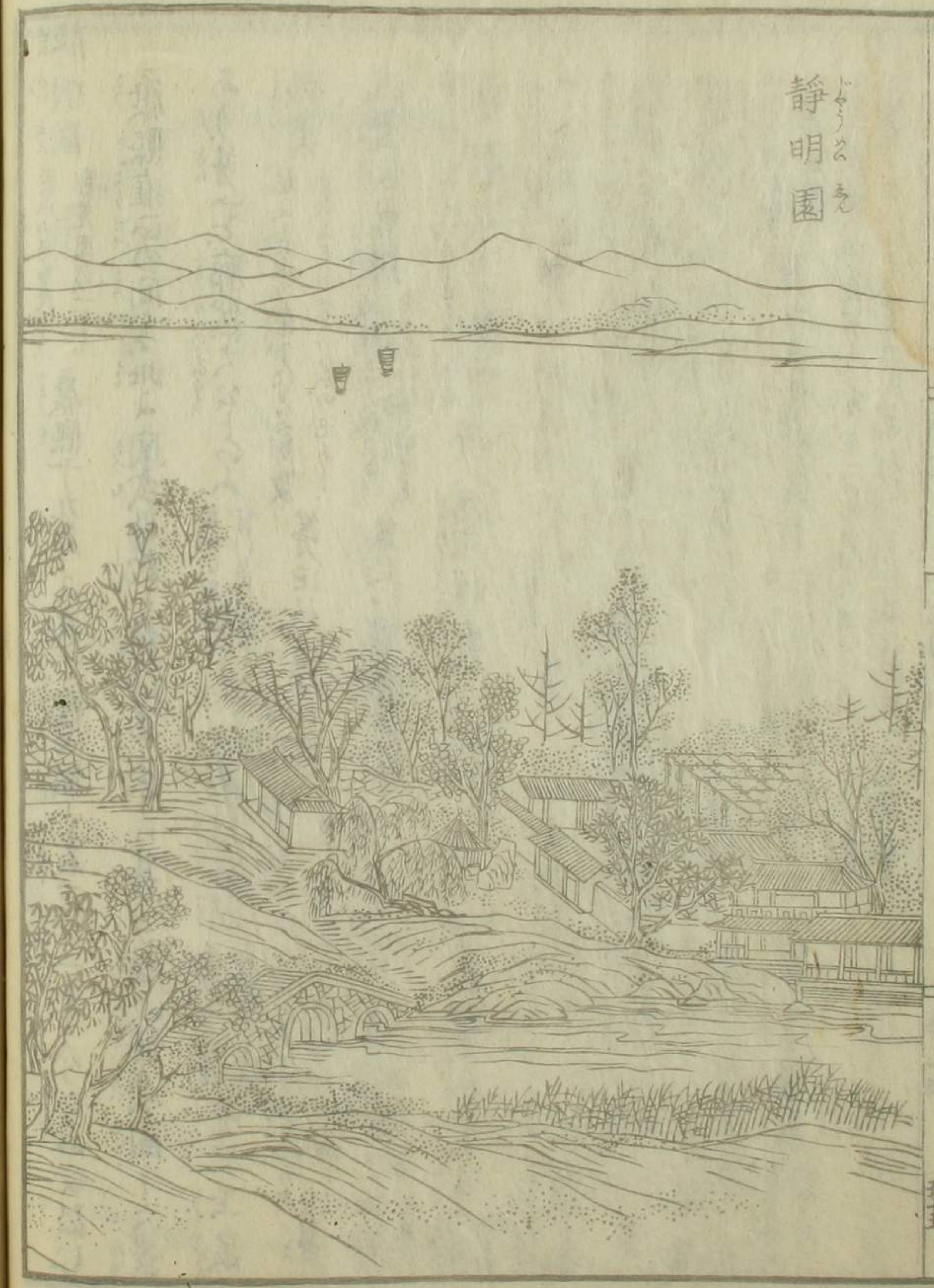
順天府

苑園郊坵

卷之四



靜明園 しやうめい



五十五

呂公洞 王侯の西二里 魏都の西二里

洞は入るやぞ洞あり。廣と深と修と二層又親香洞とも云

上華嚴寺 下華嚴寺

山の腰より一殿の後より七真洞と云ひ或は華華洞と云洞の中石壁

みは元の耶律丞相の詞明の大徳と云言々和顔と稱つけり。

耶律楚材鵬鵠天詞

花界傾頹車已遷浩歌遙望意茫然江山王氣空千秋桃李春風又一年橫翠

夏言和韻

人世滄桑有变迁靈岩玉洞自巋然朝衣幾共游山日佛界仍存刻石年嗟歲

西山 海の西三千里

山中巖の崩若ありて白塔數十山隈の青雲と相映し流

泉又多く或は荒池は流さるるに或は又伏り或は塵沙の間に散漫せり

春夏の時に晴雲碧樹花香鳥聲相まじりし秋の紅葉のときも丹錦

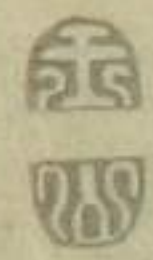
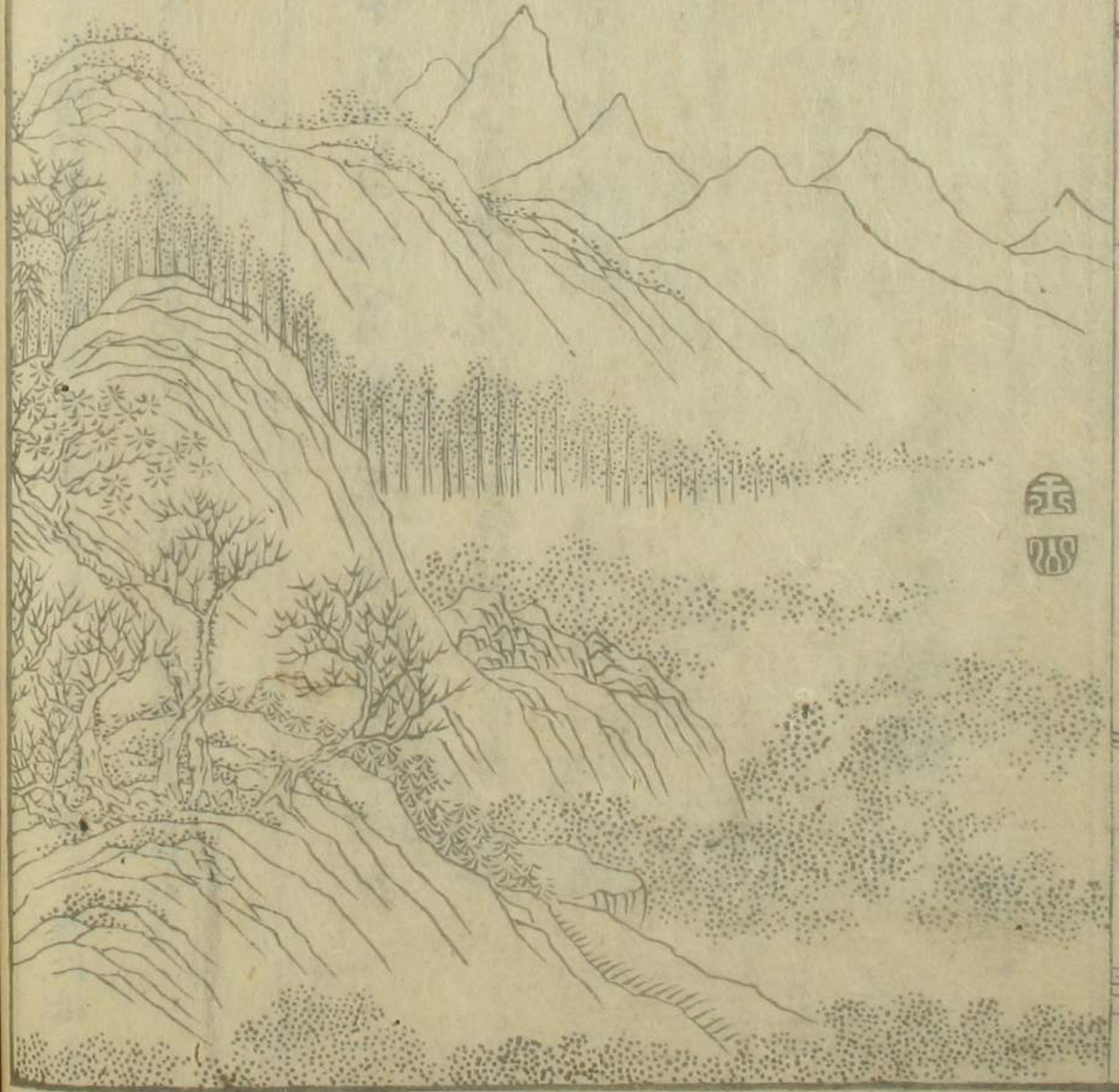
日、亦蒼蒼と云言蒼色を秋の西山に  
郊地在翻出寺出郭牙東如是間也  
裏山空岩石懸絶溪壑洗り祀源溪  
秋風忽散城頭雨先為遊人一解

三島書院印



西山霽雪

山瀉復池勝  
披圖  
按水經洞名  
疑小  
有泉品類中  
冷標  
縹朝烟白微  
茫晚  
岫青涓々通  
太液  
終古赴滄溟  
吳晟  
西山詩



順天府

苑園郊坰

卷之四



西山道中

宋玉

鶯花三月滿春暉  
吉子開殘葉葉肥  
度寺穿林碑半仆  
斷橋行處柳成圍  
抽芒小麥翻新浪  
掠水輕澗潤春衣  
望岳法峰圖畫好  
吟鞭早喜

謝塵鞅

東都行人未賦文書



沙羅樹寫真

娑羅樹恭依皇祖元韻  
樹聞如意隨求得梵典  
曾標鹿苑植層幢  
節古佛前碧眼番僧來尚識  
東土西天豈定形  
飛來靈鷲千雲書  
安知此樹不憶石  
因風作語猶冷  
七葉龍葱相蓋偃  
縱移根越千年  
凌益部  
楚州疑附會  
那親月木依雲嶽  
如相如枯影團圓  
雪覆霜凝翠嶺  
不殊調柳大夫倚  
曾沐曼珠師利者

乾隆帝御製



○中宮遊擊署王昭山の西南○靜宜園王昭山の西南○總署王昭山の西南○普陀山王昭山の西南

荷葉山王昭山の西南岡阜隱記王昭山の西南其狀荷葉の如し王昭山の西南俗以て名とん

十方普賢寺俗外佛寺と稱す後殿の内王昭山の西南佛像の如佛一尊の唯の意を帝又小殿の母を尊す

の内王昭山の西南は香檀木の如佛あり唐の貞觀年中に造る瘡心帝御製衣の碑乾隆

帝御書の額あり殿の右王昭山の西南は婆羅樹二株あり此寺創建の時西域より

移王昭山の西南り来り植る王昭山の西南なり今木の天と三圍許あり婆羅樹の皮を以て

觀音堂西より石盤あり王昭山の西南廣と教丈高と二丈なり石盤あり堂外

より登る石盤上王昭山の西南の周圍ありてこれを楢王昭山の西南下は小竇あり泉水涌出其

源王昭山の西南く深くしてこれとば王昭山の西南冷然なり○隆教寺○五華寺○慶泉

寺○圓通寺○右和菴西二三里あり

○此處水源と稱す王昭山の西南相説して小徑縁を王昭山の西南こころと王昭山の西南其の中王昭山の西南は水乃涌出る王昭山の西南の多く水傍て

退翁亭中より亭の右流水王昭山の西南流く橋を渡王昭山の西南べ川が王昭山の西南東の嶺王昭山の西南は石門あり其狀

歸然王昭山の西南なりこれと烟霞窟王昭山の西南と朱彝尊退翁詩退翁愛退翁未老先抽簪行藥亂峯路菜

廣應寺寺内は白松あり其下より王昭山の西南石雲香山王昭山の西南の諸寺眼王昭山の西南下

靜宜園香山の右あり園の内王昭山の西南東西方あり中石橋と架王昭山の西南其河と月河王昭山の西南とふ

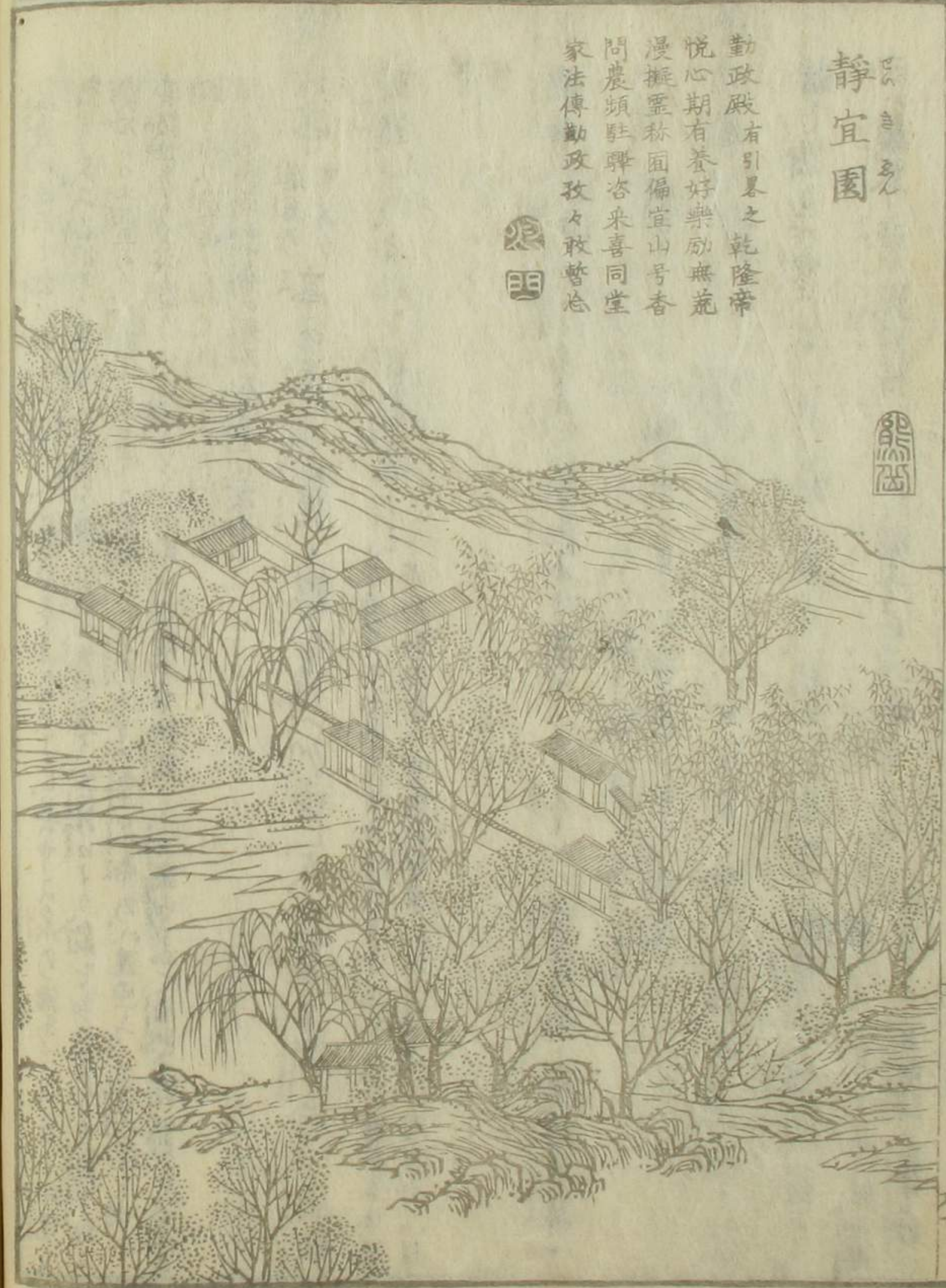
橋と渡王昭山の西南きは宮門あり内は勤政殿あり南は祝殿後王昭山の西南は致遠齋王昭山の西南撰秀館あり

西は齋王昭山の西南齋齋德雲軒王昭山の西南亦乃樓を王昭山の西南心直和平王昭山の西南と云

靜宜園香山の右あり園の内王昭山の西南東西方あり中石橋と架王昭山の西南其河と月河王昭山の西南とふ

靜宜園

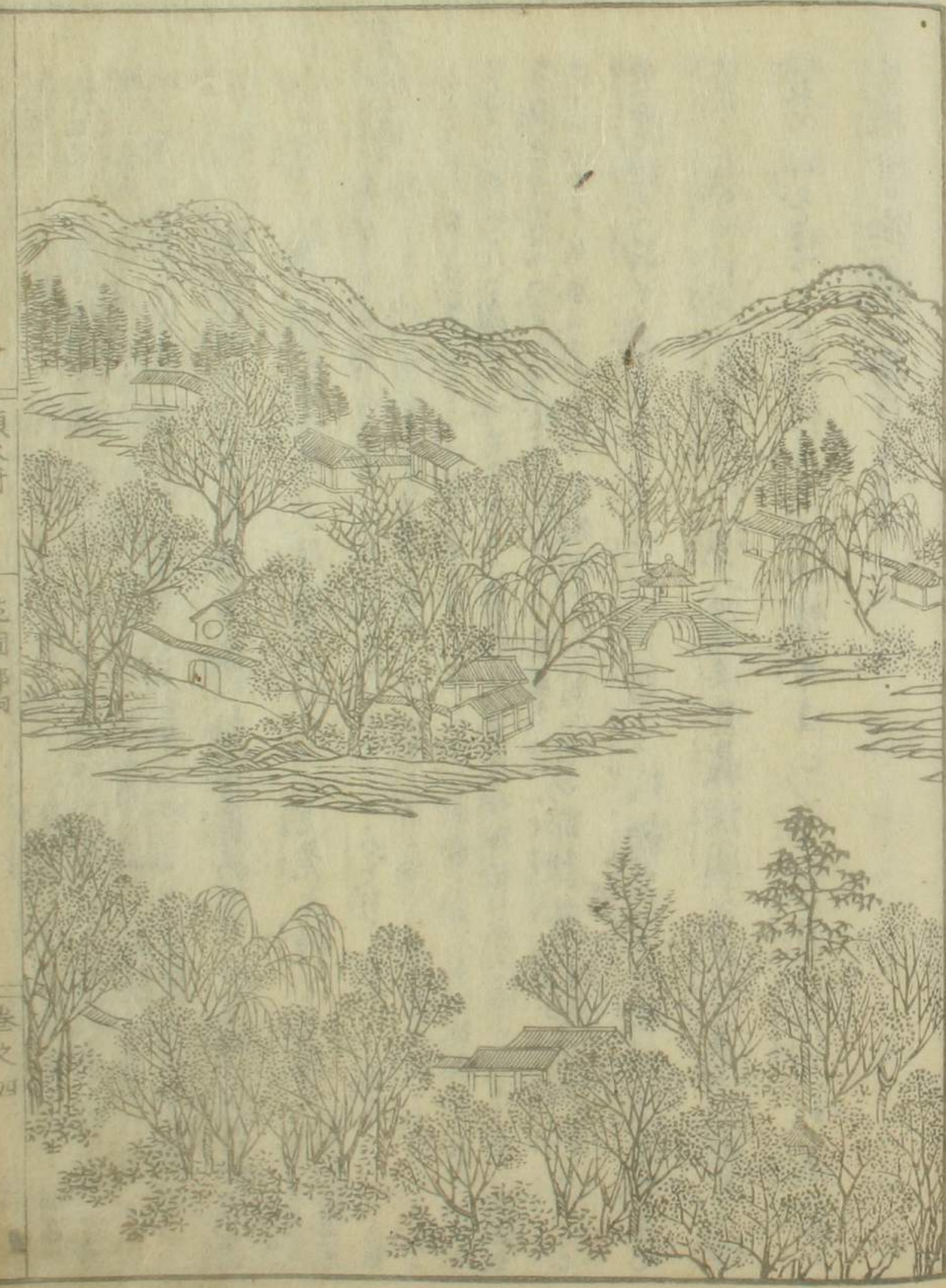
勤政殿有引卷之  
悅心期有養好樂勵無荒  
漫擬靈林面偏宜山号香  
問農頻駐驛咨采喜同堂  
家法傳勤政政方救督忘



順天府

花園鄉

卷之四





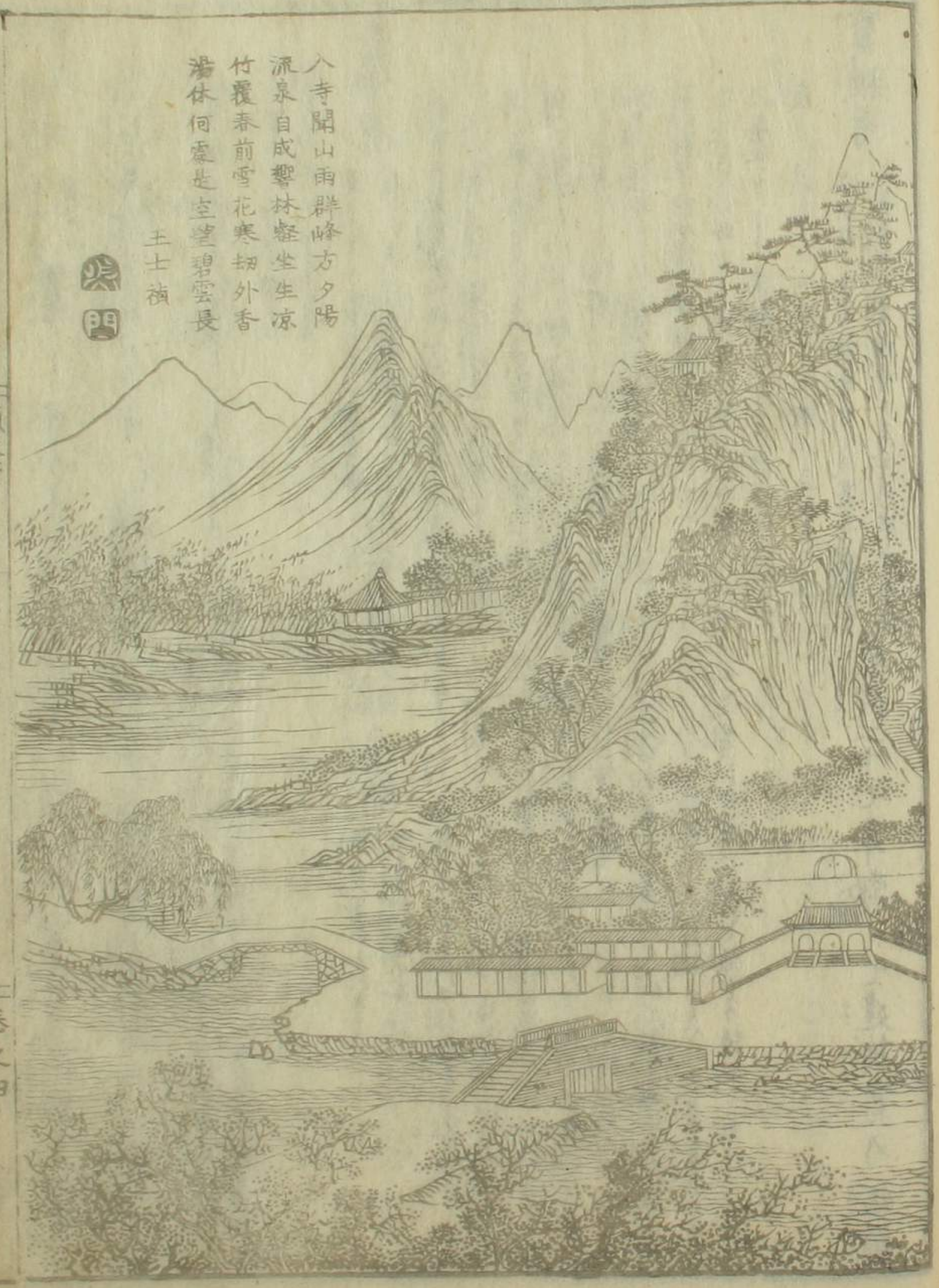
碧雲寺



六十二

入寺聞山雨  
群峰方夕陽  
流泉自成響  
林壑生涼  
竹覆春前雪  
花寒砌外香  
湯休何處是  
空望碧雲長

王士禛



順天府

英屬

卷之四

洪光寺

西山の林麓より登るふ石燈九曲九十八盤にして燈毎に松栢生ひ翳り

左右屏幃を立つるがごとし短垣繞り石を以て秋毫其間又坐して望見す

山中の勝景一覽して盡くす十八盤と云ふ在寺門あり寺内園殿あり佛舎あり坐し

十八盤を今震標燈と云

玉華寺

洪光寺の南あり。靜宜園

宗鏡大師之廟

靜宜園の北あり。佛舎無息の不振

香山の南靜宜園の西に系安山あり山は法華寺法華寺あり互に相連するを元代の弘教寺の遺址なりと云ふ其地はむじ豆泉と云ふありて中より三皇五帝三王の石像あり左に周穆王の石像あり右に周穆王の石像あり又五の石像あり後書と云ふ上は極の石と探れり門風像龍卷石と云ふ地より又殿外に石車あり内なる鐘は鐘于殿後傳年あり慶いと神の像と云ふ者またより法元龍馬あり五十五の毛旋貝と云ふ河圖の下に石の龍あり其龍甲に十と傳へ龍書の下に又東に三楹の堂あり右に法元龍馬あり左に龍馬あり後漢より以下なる皆同より以下の像と圓く左に其像を畫記して以て觀る者もあはれしむ且石殿中の石像は各様ありて漢より以後のものありて西城との像は又より其龍の石像の石像あり物あり法堂の後には石像あり佛像は先儒の像及び道と云ふ詩詞を彫りて此皇の御製碑二あり。九の碑は乾道帝御寫の文殊の像非極也と稱す

寶相寺

廣武縣の西南に寶相寺あり其西長輪寺。乾道二十七年勅して建御書り稱額

御製の碑二あり。九の碑は乾道帝御寫の文殊の像非極也と稱す

中峯

香山の後より西山流峯乃中よりあり。在中峯の南あり。内中峯あり。石樓あり。眺つて亭あり。高く半山に出圍牆十里。悉石を以て成る。中峯の南あり。即系安山なり。宋國祚中峯晚

翠巖寺

中峯の南あり。敬宇境内。廣くは山林の風致後より。法泉あり。若と廣く

杏子口

中峯の南の方。龍泉潭林を穿て。勝公寺あり。其大道は循て南教皇

靜宜園

靜宜園の南に三皇詩あり。門あり。其木は松あり

盧師山

府の西三。隋の時又一海門あり。盧師と稱は此山に居て大青小青と云ふ二龍を訓依は。此時より盧師山の名あり。山中に盧師寺あり。寺を以て一里許に

秘魔崖

あり。師の旦安座せし處なりと云ふ。隋の仁壽中盧師此崖上に居り。數歲

盧師山



盧師夙昔經行地  
惆悵蒼崖古木風  
最憶深秋飛瀑下  
四山寒葉亂流中  
王士禎



順天府

花園郊坳

卷之四





平坂山 盧師山 山の建腹は平地あり石を名く又翠微山と号く明の憲宗帝德

帝の處方り此嶺高しと云も其後一きと号へ此嶺と云ふ當恩寺あり

嘉禧寺 後天寧寺あり 寺門の右一里許徑の左右松檜鬱鬱門内に入楡柳重く

とすひと云て此地と云日教は山門方丈壯麗方々の云云

馬鞍山 山の中は萬壽寺あり 唐の武德年中は建康縣乾

隆西朝の御書の額あり

仰山 府の西二十里あり 峯巒拱秀中は平頂の蓮華心のてり方りものあり亭は獨秀峯

翠微峯 紫蓋峯 妙高峯 紫微峯 あり中は禪刹あり

滴水巖 嶺の西十里あり 黄牛岡口より登る其徑最險萬丈溪を凡は

として丹者を滴水巖と云

油雲寺 嶺の西十里あり 舊名潭柘寺燕人の諺云く先は潭柘ありて後

幽州ありと此寺の古きを知る也康熙乃同今の寺号と揚

憩息の所 嶺の西十里あり 山勢峭峻中は三峯連旗を備ふ二の潭あり潭上は松樹

百苑山 府の西十里あり 此山を并多し因て名を天苑と名すあり

順天府 苑園郊坵

卷之四

唐二名勝圖會

平坂山

嘉禧寺

馬鞍山

仰山

滴水巖

油雲寺

憩息の所

百苑山

順天府 苑園郊坵

卷之四

唐二名勝圖會



湯泉

一八  
山

筆架峯

北湖

溫泉

合地河

六士

香山十八盤  
盤中種松栢  
惟見獨行僧  
稀逢來客

朱彝尊



南湖

順天府

苑園郊坰

卷之四

てを愛とく。天華蔬と曰して食する。康熙の同山僧此花と朝廷に奉る。聖祖皇帝詞臣等に分ら賜ふ俱に詩ありて其の記と。山に入て二里許龍門

と建する文殊の金像あり大ニ尺方あり杖持せり又塔あり。又殊法身塔と名く其より善法頂と登るを百花山の頂なり。

西湖山 府の西一 下は溪潭あり。又名く。

百望山 南は西湖に阻り。北は燕平に通じ。此と去り百里にして其峯を望る。



又百望山の名あり。山の南は洞あり。高と五六とれ。登りて衆師と号むを。

湯泉 百望山の西に 山徑盤屈して温泉あり。故に十八盤山と稱は。温泉は遠の石の傍に

又山頂の南に山二の湖あり。毎歲春の氷解り。湖の南に温泉あり。流して河と成る。是を金抱河といふ。西に高く峙する峯あり。其秋を葉の下に。山上の風景甚くは奇なり。



唐土名勝圖會卷之四終

